NEC

非常通報装置

コルソスCSD110通報装置

総合説明書

必ずお読みください

【絵表示について】
この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

本書中のマークの説明

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
STOP お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容、および利用できない機能などの内容を示しています。

注意
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- この装置は日本国内用に設計されています。電圧、電話交換方式の異なる海外ではご利用できません。
  This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、ご利用ができなかったために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本商品を分解したり改造したりすることは、絶対に行わないでください。
- 本書に記載されている画面は実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、ご購入先へお申しつけください。

安全上のご注意

安全にお使いいただくために必ずお読みください

ご使用の前に「取扱説明書」と「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる場所に保管してください。

⚠警告　人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- 機器本体から煙が出ていたり、へんな臭いがする場合にはすぐに電源スイッチを切り、電池のコネクタをはずし、コンセントから電源プラグを抜いてご使用を中止し、ご購入先までご連絡ください。

- 機器本体から異常音が出ていたり、機器本体やコード類が異常に高温になっている場合にはすぐに電源スイッチを切り、電池のコネクタをはずし、コンセントから電源プラグを抜いてご使用を中止し、ご購入先までご連絡ください。

- 上記以外でも、機器をご使用中に異常と思われる状態になった場合には、すぐに電源スイッチを切り、電池のコネクタをはずし、コンセントから電源プラグを抜いてご使用を中止し、ご購入先までご連絡ください。

- AC100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。

- タコ足配線にしてご使用になりますと、火災の原因となりますので絶対におやめください。

- 電源コードを破損し断線させたり、内部電線を露出させたままご使用になりますと火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめください。

- 機器本体の上に花びん、コップ、化粧品、植木鉢、薬品や水の入った容器、小さな金属物をのせたままご使用になりますと、こぼれたり、中に入った場合、火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめください。

- 機器本体をふろ場や加湿器のそばなど、湿気の多いところに置いたり、水がかかる恐れのある場所でご使用になりますと火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめください。

- 機器本体内に水や金属、紙などの燃えやすい物が入った場合に、そのままご使用になりますと火災、感電、故障の原因となり危険です。万一異物が入った場合には、すぐに電源スイッチを切り、電池のコネクタをはずし、コンセントから電源プラグを抜いてご使用を中止し、ご購入先までご連絡ください。

- 機器本体を規定以外の設置方法（仰向け、横倒し、逆さまなど）でご使用になりますと機器内部に熱がこもり火災、故障の原因となり危険ですので絶対におやめください。

安全上のご注意

⚠警告

人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

●機器本体に水をかけたり、回線接続コネクタなどの開口部から金属類や紙などの燃えやすいものを侵入させないでください。火災、感電、故障の原因となり危険です。

●電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してからコンセントに差し込んでください。また、半年から1年に1回は、コンセントから電源プラグを抜いて、電源プラグの清掃を行ってください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。

●ぬれた手で電源コードや電源プラグにさわったり、機器を操作されますと感電の原因となり危険ですので絶対におやめください。

●機器内の電池などの交換をお客様ご自身で行ったり、機器で指定されていない電池を使用されますと火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめください。

●機器本体を落下させたり、物をぶつけるなどの強い衝撃を与えた場合に、そのままご使用になりますと火災、感電、故障の原因となり危険です。万一落下させたりした場合には、すぐに電源スイッチを切り、電池のコネクタをはずし、コンセントから電源プラグを抜いてご使用を中止し、ご購入先までご連絡ください。

●近くで雷が発生した場合は、本機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから外して、本機器のご使用をお控えください。雷の影響で本機器が破壊される恐れがあります。

●お手入れする場合は、必ず本機器の電源を切り、電池のコネクタをはずし、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。また、本機器に電話機等が接続されている場合、それらの機器も電源を切り本機器から取り外してください。

⚠注意

人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容です。

●機器本体を収納箱や本棚など風通しの悪い場所に置いてご使用にならないでください。機器内部に熱がこもり火災、故障の原因となります。

●機器本体をじゅうたんの上や、布団の上に置いてご使用にならないでください。機器内部に熱がこもり火災、故障の原因となります。

●機器本体にテーブルクロスなど通気性の悪いカバーを掛けてご使用にならないでください。機器内部に熱がこもり火災、故障の原因となります。

●機器本体を屋外や直射日光の当たるところ、また冷暖房機の吹き出し口の前などに置いてご使用にならないでください。火災、故障の原因となります。

●機器本体をゴミやほこりの多い場所、また金属粉や有毒ガスの発生する場所に置いてご使用にならないでください。火災、故障の原因となります。

安全上のご注意

⚠注意

人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容です。

●機器本体に乗らないでください。倒れたり破損して、けがをする場合があります。

●長期間機器をご使用にならない場合には電源を切り、安全のためコンセントから電源プラグ、電池のコネクタ及びISDNケーブルを抜いてください。

●機器本体に高温の発熱体の熱器具を近づけないでください。溶けて発火したり、変色する場合があります。

●電源コードを高温の発熱体の熱器具に近づけないでください。コードの皮膜が溶けて火災、感電の原因となる場合があります。

●機器本体をぐらついた台の上や傾いた所、また振動や衝撃を受けやすい場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをする場合があります。

●電源プラグは、コンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると、火災、感電の原因となる場合があります。

●コンセントから電源プラグを抜く際は、必ず電源プラグ本体を持って抜くようにしてください。コードを引っ張りますと、コードが傷つき断線したり、火災、感電の原因となる場合があります。

●機器本体を移動させる場合には、電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続線を外したことを確認の上、行ってください。コードを傷つけますと、火災、感電の原因となる場合があります。

●本機器のケーブルの接続は「8. 配線・設置工事」により行ってください。その他の接続においては動作は保証されません。

●NCCアダプタ等が接続されている電話回線に製品を接続しますと通信が正常に行われない場合があります。

安全上のご注意

お願い

本商品が本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容、および利用できない機能などの内容です。

★ご使用にあたり次のお願いをお守りください。

●機器本体をベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。変色や変形、破損の原因となります。汚れがひどい場合には、布にうすめた中性洗剤を含ませ、よく絞ってから拭き取り、その後かわいた布で拭くようにしてください。

●機器本体を電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（コンピューター、電子レンジ、スピーカー、テレビ、ラジオ、ファクシミリ、蛍光灯、ワープロ、電気こたつ、インバーターエアコン、電磁調理器など）。故障や誤動作の原因となることがあります。

●お客様がご用意された機器を、本機器に接続してご使用になる場合には、あらかじめご購入先にご確認ください。

●機器本体を製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本商品が正常に動作しないことがあります。

もくじ

必ずお読みください …… 1

安全上のご注意 …… 2

【共通説明編】

1. 概要 …… 10

2. 各部の名称とはたらき …… 10

3. システム構成 …… 12

3. 1 システム構成図 …… 12

3. 2 システム構成品と機能説明 …… 13

4. システム仕様 …… 14

5. 外形寸法および重量 …… 14

6. システム定格 …… 14

7. 接続(周辺)機器の規格 …… 15

【工事説明編】

8. 設置工事 …… 18

8. 1 手配品の確認 …… 19

8. 2 工事依頼書の確認 …… 19

8. 3 設置場所の確認 …… 19

8. 4 配線・設置工事 …… 20

8. 4. 1 構成品の確認 …… 20

8. 4. 2 本体カバーの取り外し …… 20

8. 4. 3 CSD110通報装置の取付 …… 21

8. 4. 4 アース線の接続、および商用電源への接続 …… 21

8. 4. 5 CSD110受理用電話機の取付 …… 22

8. 4. 6 配線を延長する場合 …… 23

8. 4. 7 電話装置の接続 …… 23

8. 4. 8 受理用電話機の接続 …… 24

8. 4. 9 非常用押しボタンの接続 …… 24

8. 4. 10 非常用押しボタンの増設 …… 26

8. 4. 11 発報用ブザーの配線 …… 28

8. 4. 12 発報確認ランプの接続 …… 29

8. 4. 13 装置内配線ケーブルの集線 …… 30

9. 各種設定 …… 31

9. 1 電源投入 …… 31

9. 1. 1 音声の録音再生、およびシステムデータ設定・確認準備 …… 31

9. 2 音声の録音・再生 …… 32

9. 2. 1 録音音声の録音方法 …… 32

9. 2. 2 録音をやり直す場合 …… 32

9. 2. 3 録音音声の再生方法 …… 33

9. 3 システムデータの設定・確認 …… 33

9. 3. 1 システムデータ設定作業 …… 33

9. 3. 2 システムデータ個別消去 …… 38

9. 3. 3 システムデータ確認作業 …… 38

9. 3. 4 電話回線の接続 …… 39

9. 3. 5 電話回線の極性確認 …… 39

9. 3. 6 システムデータの設定・確認の終了 …… 40

もくじ

10. 設置・配線チェック …… 42
10. 1 電池の取付 …… 42
10. 1. 1 電池の収納 …… 42
10. 1. 2 電池の接続 …… 42
11. 開通試験の実施 …… 43
11. 1 実報試験 …… 43
11. 2 テストモードでの試験 …… 43
11. 2. 1 非常用押しボタン通報 …… 43
11. 2. 2 非常用押しボタン故障通報 …… 45
11. 2. 3 停電／復電通報 …… 46
11. 2. 4 運用モードへの移行 …… 46
11. 2. 5 運用モードへの強制切替 …… 46
11. 2. 6 開通試験終了 …… 47
【取扱説明編】
12. 機能および動作概要 …… 50
12. 1 非常用押しボタン動作 …… 50
12. 1. 1 110番通報 …… 50
12. 1. 2 近隣への通報動作 …… 50
12. 2 その他の通報 …… 51
12. 2. 1 非常用押しボタン故障通報 …… 51
12. 2. 2 通報失敗履歴通報 …… 52
12. 2. 3 定時通報 …… 52
12. 2. 4 電池チェックおよび電池交換通報 …… 52
12. 2. 5 停電／復電通報 …… 53
12. 3 回線断線検出 …… 53
13. 日常の点検 …… 54
13. 1 装置ランプの確認 …… 54
13. 2 受理用電話機の確認 …… 54
14. 保守 …… 55
14. 1 電池の交換 …… 55
14. 1. 1 停電電池 …… 55
14. 1. 2 メモリ電池 …… 56
14. 2 アフターサービスについて …… 57

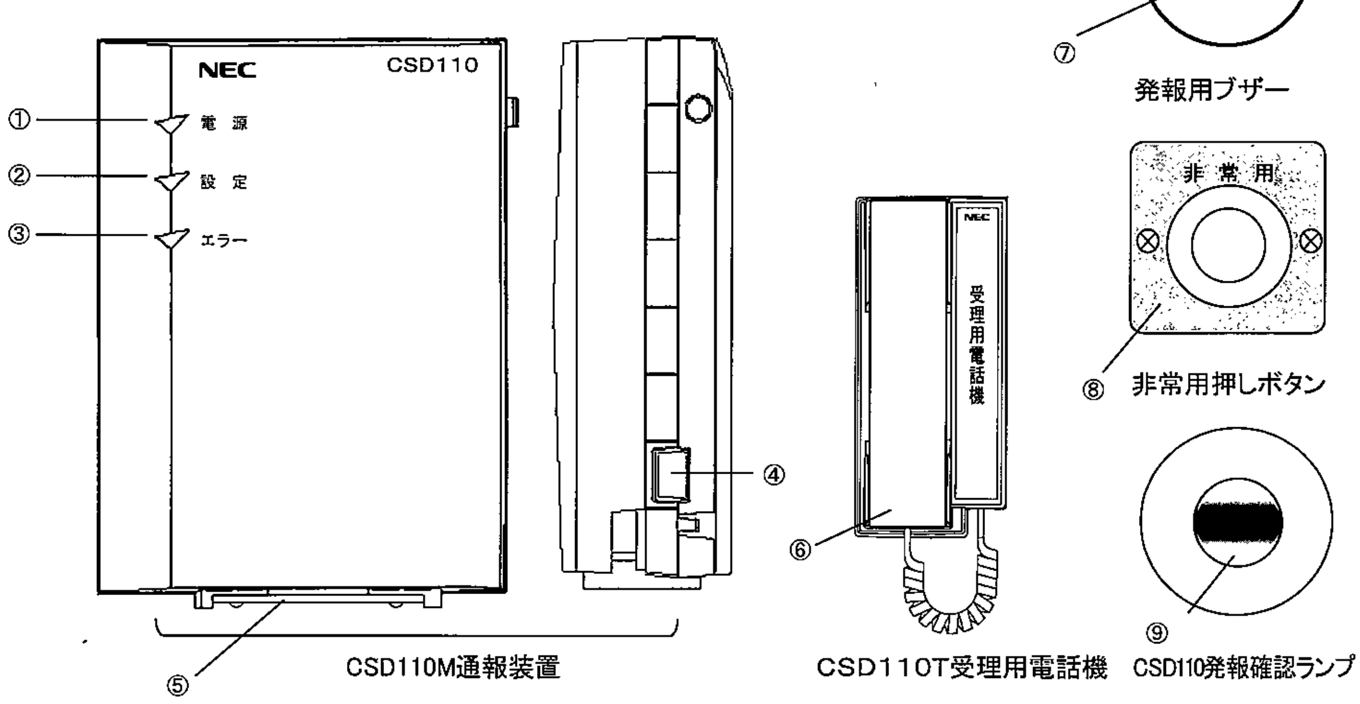
共通説明編

1. 概要

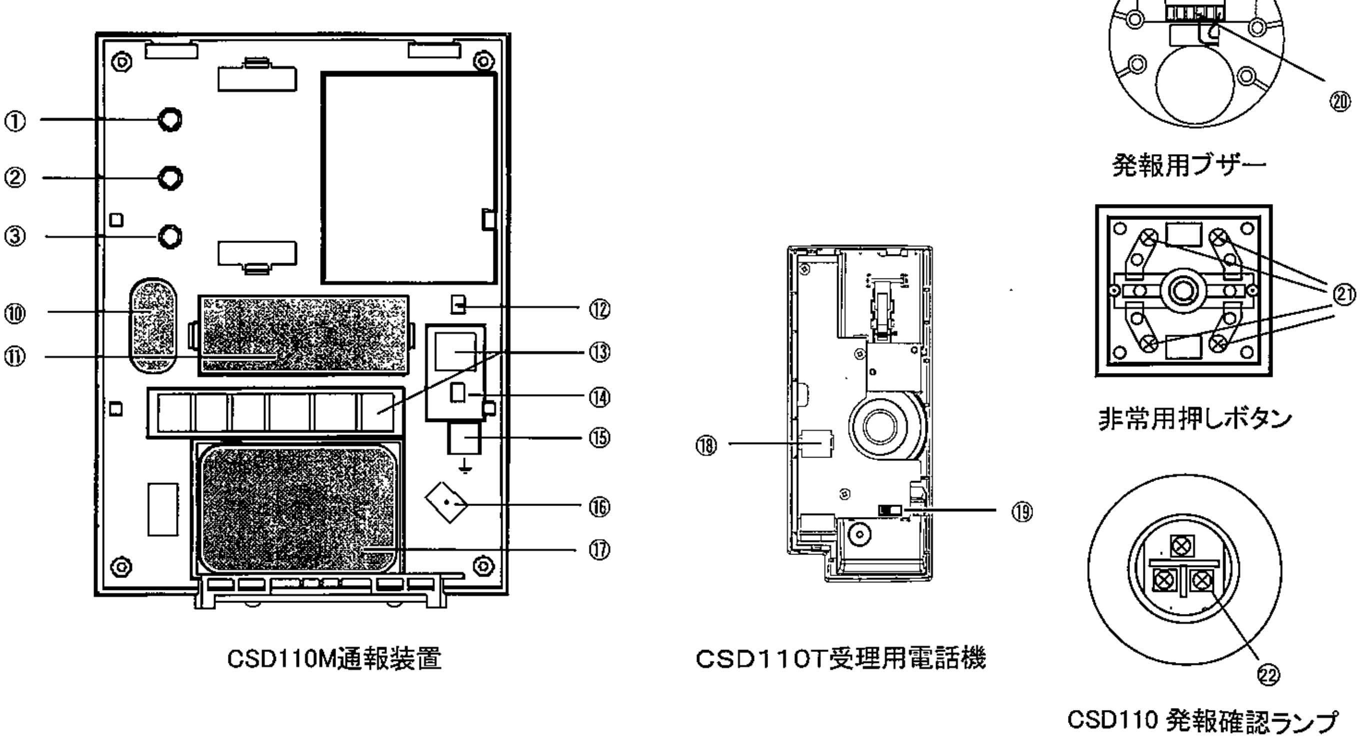
CSD110M通報装置は、非常用押しボタンの入力を検知すると110番指令台に自動ダイヤルして緊急通報を行う装置です。110番指令台からの逆信に対し、CSD110T受理用電話機にて応答し、通話が可能です。自己診断機能を有し、非常用押しボタンや回線の断線検出、停電用電池のチェック等を行い、管理センターに通報を行います。発報用ブザーや CSD110発報確認ランプを接続し、110番への通報状況を可視・可聴にて認識できます。

2. 各部の名称とはたらき

外観図



内観図



CSD110M通報装置外観

①電源ランプ

AC100Vおよび停電バックアップ用電池から給電されている時に青色点灯します。

②設定ランプ

設定スイッチを設定側に切替えると赤色点灯します。

電話回線使用中は点滅します。

③エラーランプ

回線断線検出で赤色点灯、通報失敗で点滅します。

④電源スイッチ

AC100Vを入切するスイッチです。本スイッチがOFFでも停電バックアップ用電池から給電されます。

⑤スライドカバー

こじ開け防止用のカバーです。

CSD110T受理用電話機外観

⑥受話器

通話を行うための受話器です。

発報用ブザー外観

⑦非常時の鳴動します。

非常用押しボタン外観

⑧非常時押下するボタンです。

CSD110発報確認ランプ外観

⑨表示ランプ

非常押しボタンを押すと緑色点灯し、逆信応答すると赤色点灯します。

CSD110T受理用電話機内観

⑱接続コネクタ

CSD110M通報装置との接続コネクタです。添付の8Wラインコードを使用し接続します。

⑲スピーカ音量切替スイッチ

CSD110T受理用電話機のスピーカ音量を切替えます。

初期値は「大」側です。

CSD110M通報装置内観

⑩メモリバックアップ用電池

録音音声をバックアップする電池です。

⑪TBUユニット

非常押しボタンや発報確認用ランプ、非常用ブザー等を接続します。

⑫設定スイッチ

システムデータ設定時に切替えます。

通常は「運用側」、設定時は「設定側」に切替えます。

⑬接続用コネクタ

CSD110受理用電話機および既設の電話機や電話回線を接続するコネクタです。

⑭回線極性切替スイッチ

電話回線の極性を切替えます。

⑮ETH 端子

アース線を接続する端子です。

⑯集線用ケーブル押さえバンド

各種配線を束ねるバンドです。

⑰停電バックアップ用電池

停電時の動作をフルバックアップする電池です。添付のニッカド電池パックを本位置に収容します。

発報用ブザー内観

⑳配線端子

装置と接続する配線端子です。

非常用押しボタン内観

㉑配線端子

装置と接続する配線端子です。

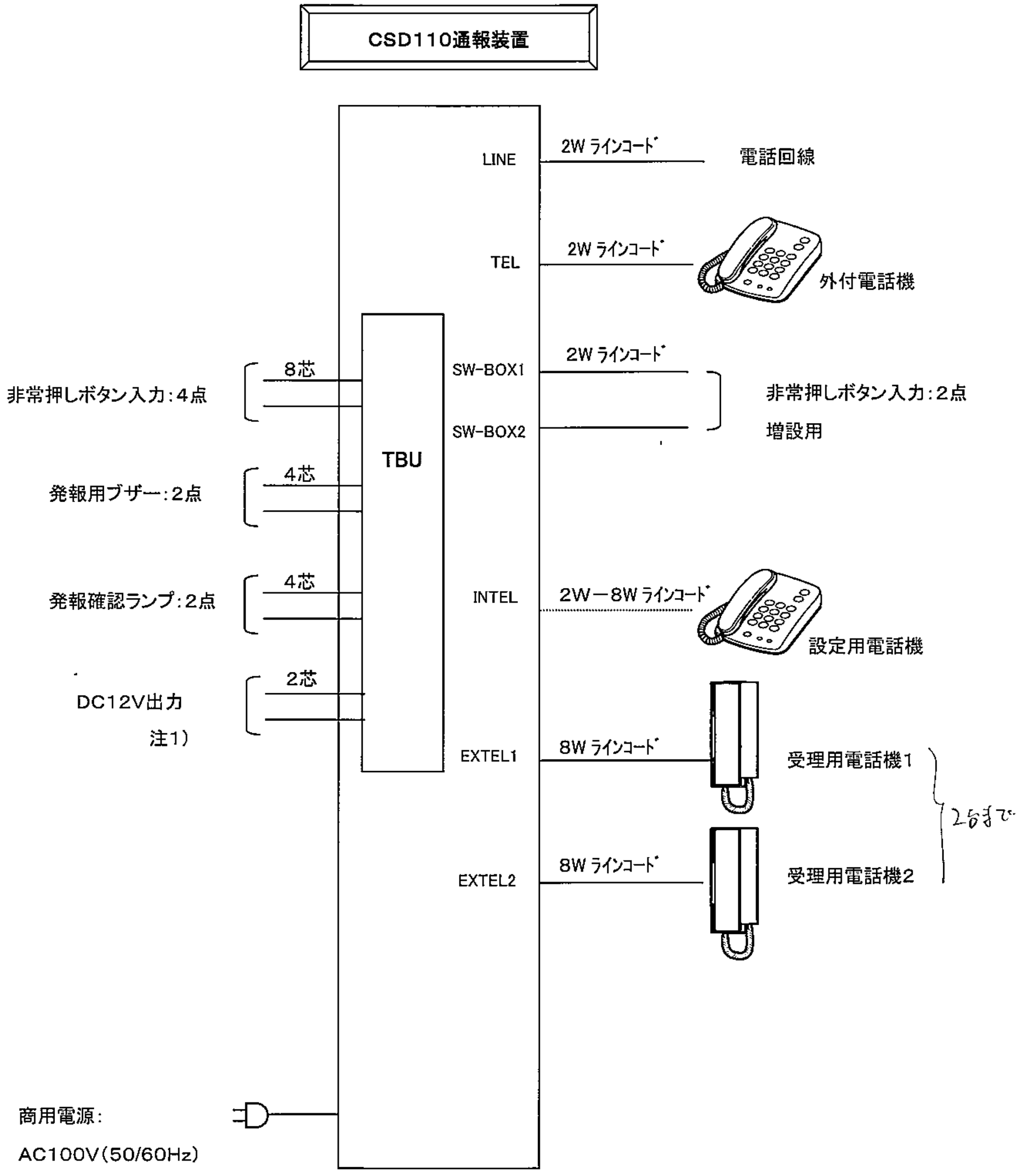
CSD110 発報確認ランプ内観

㉒配線端子

装置と接続する配線端子です。

3. システム構成

3. 1 システム構成図



注1) DC12V出力定格:100mA
100mA以上流れた場合、ヒューズが溶断します。

3．2 システム構成品と機能説明

◆システム構成品

No	品名	機能および構成品	備考
1	CSD110M通報装置	機能：110番指令台に自動ﾀﾞｲﾔﾙし、ﾒｯｾｰｼﾞ送出・通話を行います。 CSD110T受理用電話機：2台　CSD110発報確認ﾗﾝﾌﾟ：1台 発報用ﾌﾞｻﾞｰ：1台　非常用押しﾎﾞﾀﾝ：6台 構成品( )内は数量： CSD110M通報装置(1)　総合説明書(1)　保証書ｾｯﾄ(1)　停電ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ用ﾆｯｶﾄﾞ電池ﾊﾟｯｸ(1)　固定用ﾈｼﾞ(2)　壁掛けﾍﾞｰｽ(1)　運用ﾏﾆｭｱﾙ(1)　登録ﾃﾞｰﾀ表(1)　2W-8W ﾗｲﾝｺｰﾄﾞ(1)　2W ﾗｲﾝｺｰﾄﾞ(1)　TBUﾄﾞﾗｲﾊﾞｰ(1)	
2	CSD110T受理用電話機	機能：CSD110M 通報装置に接続し、110 指令台と通話できます。 構成品( )内は数量： CSD110T受理用電話機(1)　8W ﾗｲﾝｺｰﾄﾞ(1)　固定用ﾈｼﾞ(2)	
3	CSD110発報確認ﾗﾝﾌﾟ	機能：CSD110M通報装置に接続し、110 通報状況を表示します。 構成品( )内は数量： CSD110 発報確認ﾗﾝﾌﾟ (1)　壁掛け金具固定用ﾈｼﾞ(2)	
4	非常用押しﾎﾞﾀﾝ 松下電工 型名：EK51 非常用釦 D	機能：CSD110M通報装置に接続し、非常時押下します。	
5	発報用ﾌﾞｻﾞｰ ﾊﾟﾙﾆｯｸｽ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ株式会社 型名：AS-88CW	機能：CSD110M通報装置に接続し、非常時鳴動します。	
6	停電ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ用ﾆｯｶﾄﾞ電池ﾊﾟｯｸ EX1821-0000	機能：停電ﾌﾙﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ用電池です。電池の寿命は約3年です。 構成品( )内は数量： 14.4V ﾆｯｶﾄﾞ電池ﾊﾟｯｸ(1)	保守用品
7	ﾒﾓﾘﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ用ﾆｯｶﾄﾞ電池ﾊﾟｯｸ EX1792-3FP0	機能：ﾒﾓﾘﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ用電池です。電池の寿命は約3年です。 構成品( )内は数量： 3.6V ﾆｯｶﾄﾞ電池ﾊﾟｯｸ(1)	保守用品
8	2W-8W ﾗｲﾝｺｰﾄﾞ EV5327-0010	機能：装置のｼｽﾃﾑﾃﾞｰﾀ設定用。市販電話機主装置の接続に使用します。 構成品( )内は数量： 2W-8W ﾗｲﾝｺｰﾄﾞ(1)	保守用品
9	単独電話機	機能：装置のｼｽﾃﾑﾃﾞｰﾀ設定用に使用する単独電話機です。	
10	8Wﾗｲﾝｺｰﾄﾞ EV5315-30H0	機能：装置と受理用電話機の接続に使用するｺｰﾄﾞです。 構成品( )内は数量： 8W ﾗｲﾝｺｰﾄﾞ(1)	保守用品
11	NMJ-8 ﾓｼﾞｭﾗｰﾛｰｾﾞｯﾄ	機能：受理用電話機の延長や非常押しﾎﾞﾀﾝ増設に使用します。	工事用品
12	抵抗器	機能：非常用押しﾎﾞﾀﾝに接続し、断線/混触/短絡確認を行います。 ①非常用押しボタン No.1～No.4の場合 ・1/4W　82KΩ　Jﾗﾝｸ ・1/4W　120KΩ　Jﾗﾝｸ　］必要台数分 ②非常用押しボタン No.5、6の場合 ・1/4W　33KΩ　Jﾗﾝｸ ・1/4W　47KΩ　Jﾗﾝｸ　］必要台数分	工事用品 非常用押しﾎﾞﾀﾝ数分必要
13	通報装置用ﾀｰﾐﾅﾙｱﾀﾞﾌﾟﾀ 株式会社大興電機製作所 型名:ﾀｰﾐﾅﾙｱﾀﾞﾌﾟﾀ TA/T	機能：CSD110M通報装置を ISDN 回線に接続するときに使用します。	

4. システム仕様

No.	項目	仕様	記事
1	適用回線	一般電話回線	
2	ﾀﾞｲﾔﾙ種別	DP(10PPS/20PPS)／PB	
3	ﾀﾞｲﾔﾙ桁数	最大32桁、0～9	
4	端末ID桁数	最大8桁、0～9	
5	通信方式	・録音音声 ・DTMF	
6	応答方式	・極性反転検出 ・音声等検出/BT・RBT以外/無音	
7	ｽｲｯﾁ	・設定ｽｲｯﾁ ・電源ｽｲｯﾁ ・極性切替ｽｲｯﾁ	ｽﾗｲﾄﾞ型 波型 ｽﾗｲﾄﾞ型
8	表示機能	LED：3個 電源ﾗﾝﾌﾟ、設定ﾗﾝﾌﾟ、ｴﾗｰﾗﾝﾌﾟ	電源ﾗﾝﾌﾟ ：青 LED 設定ﾗﾝﾌﾟ ：赤 LED ｴﾗｰﾗﾝﾌﾟ ：赤 LED
9	ﾒｯｾｰｼﾞ用音声録音	電話機による録音・再生（最大24秒）	
10	非常押しﾎﾞﾀﾝ入力	6入力、無電圧ﾒｰｸ接点入力 （外付抵抗器により、断線・混触・短絡・ﾎﾞﾀﾝ押下・動作なしの5状態を検出）	
11	動作接点出力	・4出力（うち 2 出力は発報確認用ﾗﾝﾌﾟ専用） ・ﾄﾞﾗｲ接点、接点定格：DC30V・1A	待機時ﾌﾞﾚｰｸ
12	受理用電話機	2台	
13	外付電話機	1台	市販品
14	設置形態	壁掛け設置専用	

5. 外形寸法および重量

品名	重量	外形寸法(mm)		
		幅	高さ	奥行き
CSD110M通報装置	約1．2Kg	183	247	80
CSD110T受理用電話機	約300g	78	176	61
CSD110発報確認ﾗﾝﾌﾟ	約100g	72	72	49

6. システム定格

◆電源電圧・消費電力

動作電源電圧	AC100V 10V 50/60Hz		
品名	待機時	動作時（最大）	記事
CSD110M通報装置	8VA	18VA	CSD110発報確認ﾗﾝﾌﾟ1台、発報用ﾌﾞｻﾞｰ1台含む

◆大地ｱｰｽ

大地ｱｰｽ種別	規　格
	D種接地工事(接地抵抗 100Ω以下)

◆停電動作

項目	停電動作	充電時間
ﾌﾙﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ	5時間待機後 1 回（10分程度）の通話が可能	充電時間48時間以上
ﾒﾓﾘﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ	停電ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ電池放電後、48時間以上ﾒﾓﾘをﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ可能	充電時間48時間以上

注1. 工場出荷時は電池の放電状態ですので、設置時予め充電してください。

注2. 電池の寿命は約3年です。停電発生の有無に関わらず必ず3年毎に交換してください。

◆使用温度・使用湿度範囲

使用温度範囲	使用湿度範囲
0～40℃	20～80%(結露なきこと)

◆工事用品

配線ケーブル	規格
CSD110T受理用電話機配線	添付のラインコードまたは0.5φETIケーブル同等品
周辺機器(非常用押しボタン等)配線	0.5φETIケーブル同等品
大地アース線	1.6φ IV等

7. 接続(周辺)機器の規格

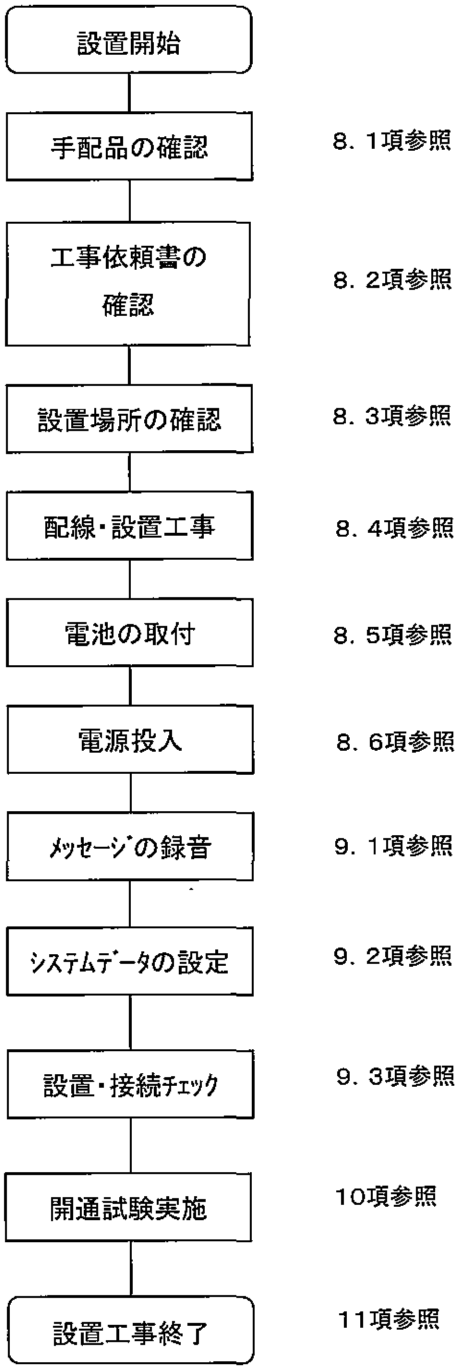
接続(周辺)機器の規格

接続機器	指定品	規格	記事
外付電話機	—	技術基準適合認定品	
非常用押しボタン	○	ループ抵抗:40Ω以下	
発報用ブザー	○	定格電圧:DC12V ループ抵抗:100Ω以下	
CSD110発報確認ランプ	○	定格電圧:DC12V ループ抵抗:100Ω以下	
接点出力に接続される装置	—	ループ抵抗:100Ω以下	
CSD110T受理用電話機	○	ループ抵抗 40Ω以下	

工事説明編

8. 設置工事

設置工事は下図のフローチャートに従って行います。



8．1　手配品の確認

（1）　装置および周辺機器の手配漏れがないか確認してください。

（2）　工事の手配漏れがないか確認してください。

8．2　工事依頼書の確認

本工事の依頼を受けた時点でその工事内容を把握し、前項のｼｽﾃﾑ構成から必要な周辺機器等の注意事項を確認してから作成してください。

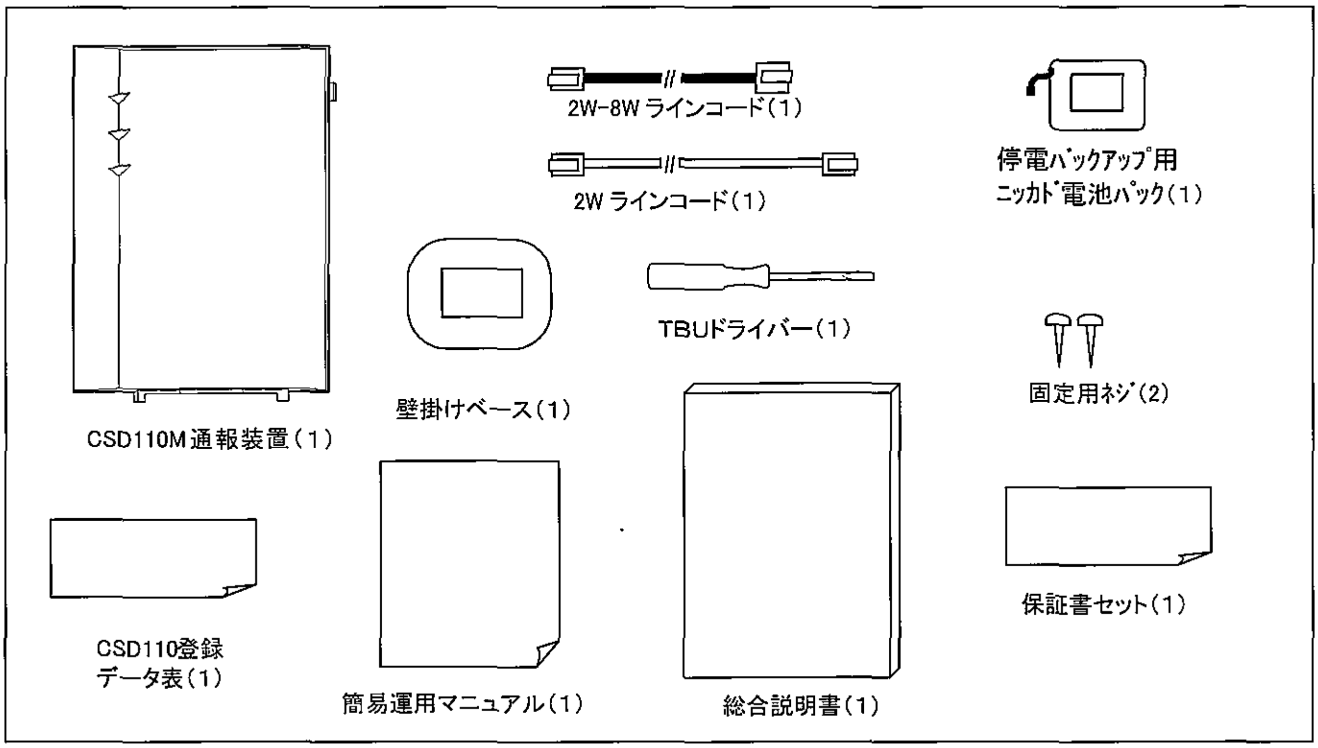
8．3　設置場所の確認

項目	設置条件	注意事項
設置環境	温度：0～40℃ 湿度：20～80％	急激な温度、湿度の変化、結露がないこと
設置場所	・直射日光、暖房器具等で高温・多湿にならない場所 ・著しく温度の低下しない場所 ・振動・衝撃、ｺﾞﾐ・ﾎｺﾘが少ない場所 ・冠水、薬品類（ｶﾞｿﾘﾝ・ﾍﾞﾝｼﾞﾝ・ｼﾝﾅｰ等）のかかる恐れのない場所 ・溶接機、高周波ﾐｼﾝ等、電気的ﾉｲｽﾞを発生する物やﾗｼﾞｵ、ﾃﾚﾋﾞ等、高周波信号を扱っている機器が近くにない場所 ・通行、物の出し入れがあり、保守点検作業に支障がない場所	
電源設備	AC100V±10V(50Hz/60Hz) AC100V が24時間常時供給されていること	電源ｺﾝｾﾝﾄが近くにある場所
通信設備ｹｰﾌﾞﾙ	D種ｱｰｽが取れる場所	

8. 4 配線･設置工事

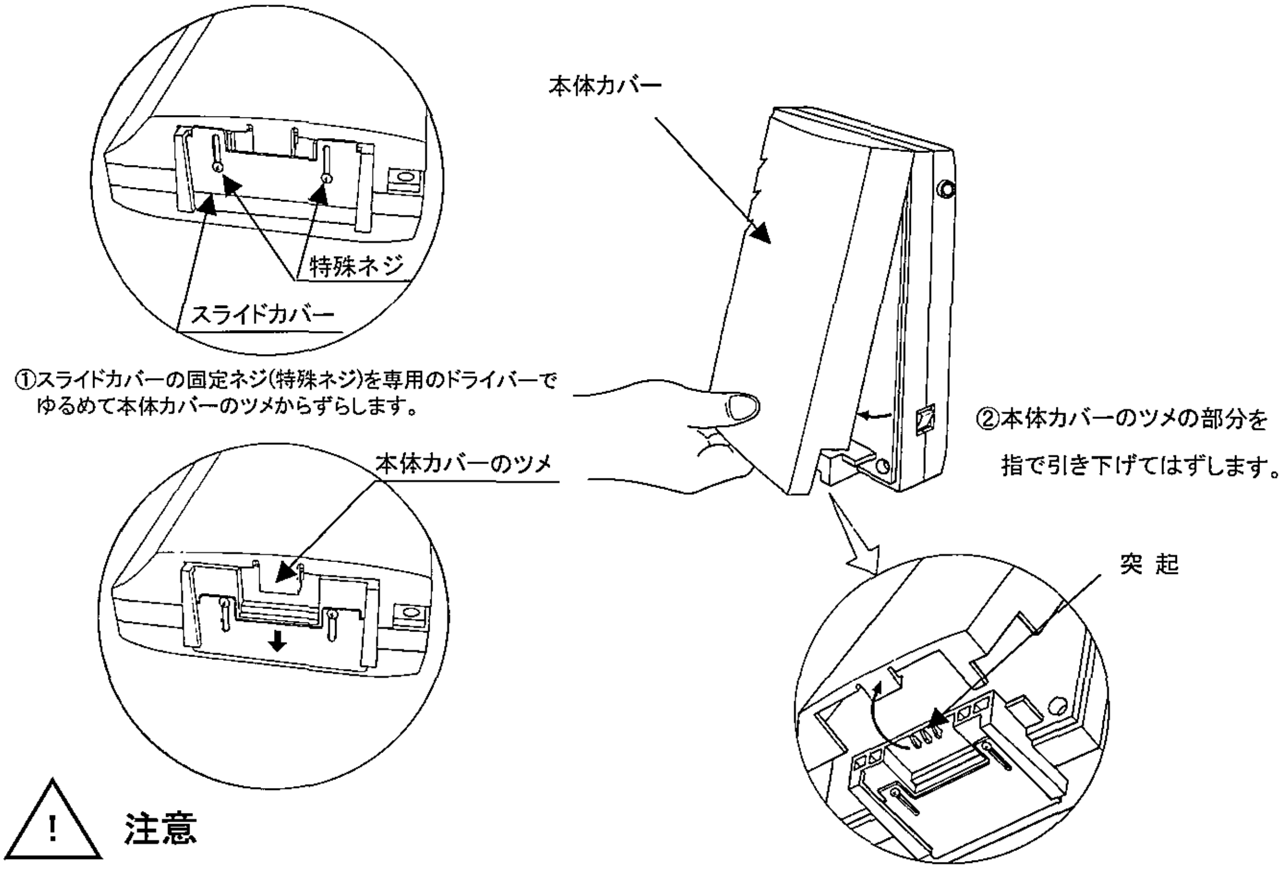
8. 4. 1 構成品の確認

構成品を取出し、全てそろっていることを確認します。



8. 4. 2 本体カバーの取り外し

CSD110M通報装置正面の本体カバーを下図のように取り外します。

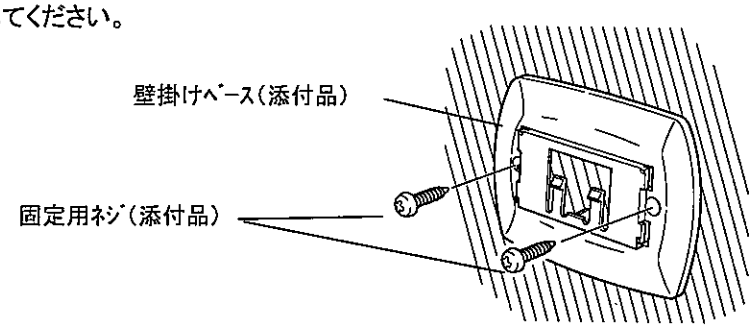


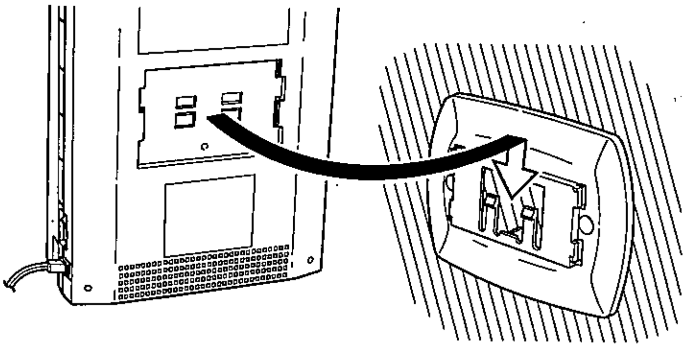
注意

本体カバーを取り外す際に、ツメを引っかける突起がありますので、
取扱いには注意願います。

8．4．3　CSD110M通報装置の取付

CSD110M通報装置（以下装置）の取付は、下図のように添付されている壁掛けベースおよび固定用ネジを使用して壁面に設置してください。





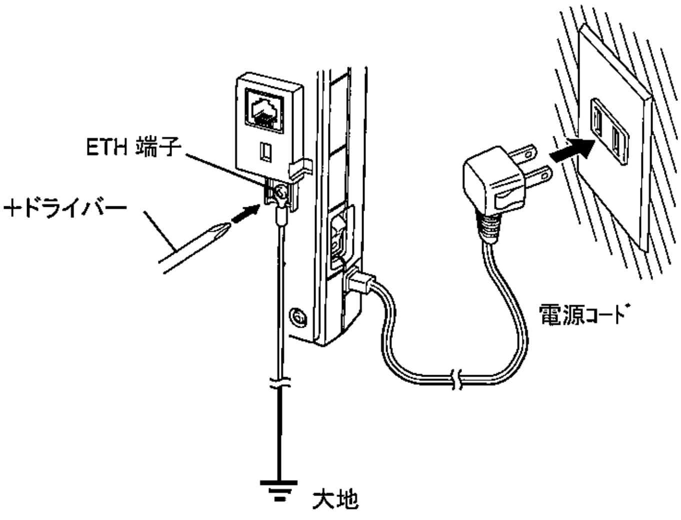
①取付位置決定後、壁掛けベースを壁面に固定し、添付の固定用ネジにて固定します。

②固定用ネジで固定した壁掛けベースに装置を引っ掛けます。

③「カチッ」と音がするまで装置を壁掛けベースに引っ掛けると固定完了です。

8．4．4　アース線の接続、および商用電源への接続

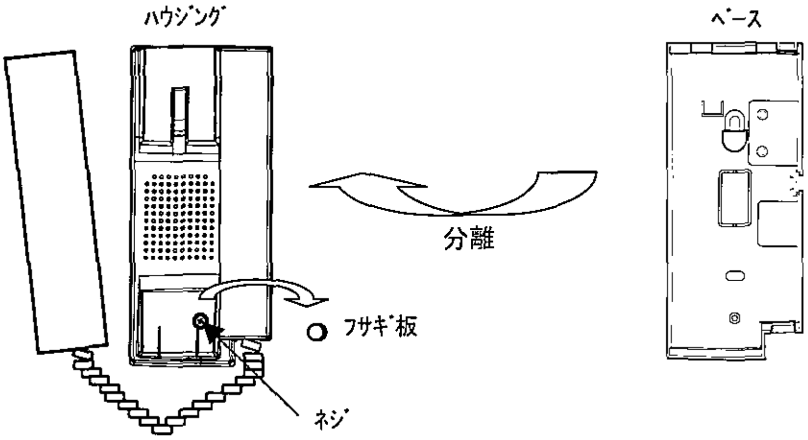
①アース線は、装置の ETH 端子にネジ止めし、D種接地工事（接地抵抗100Ω以下）を必ず実施してください。



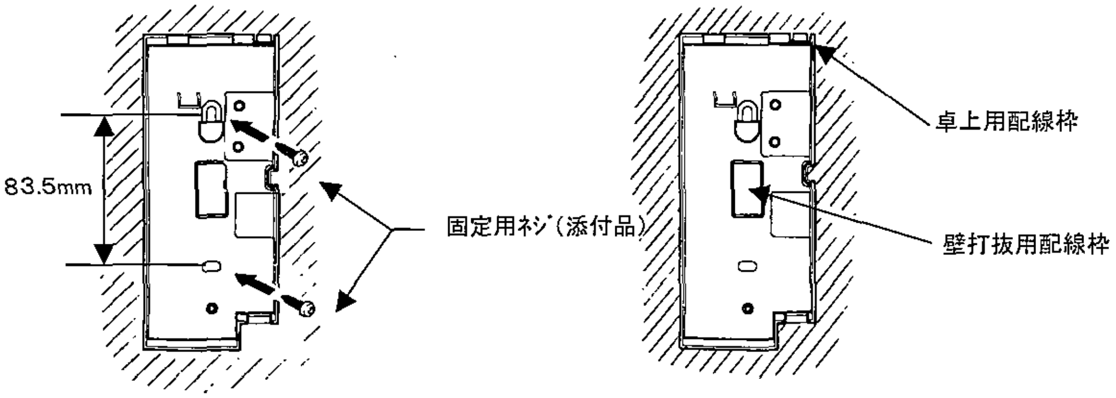
8．4．5　CSD110T受理用電話機の取付

CSD110T受理用電話機（以下受理用電話機）を所定の壁面に固定します。

①受理用電話機受話器下のフサギ板をはずし、ネジをはずして本体を分離します。

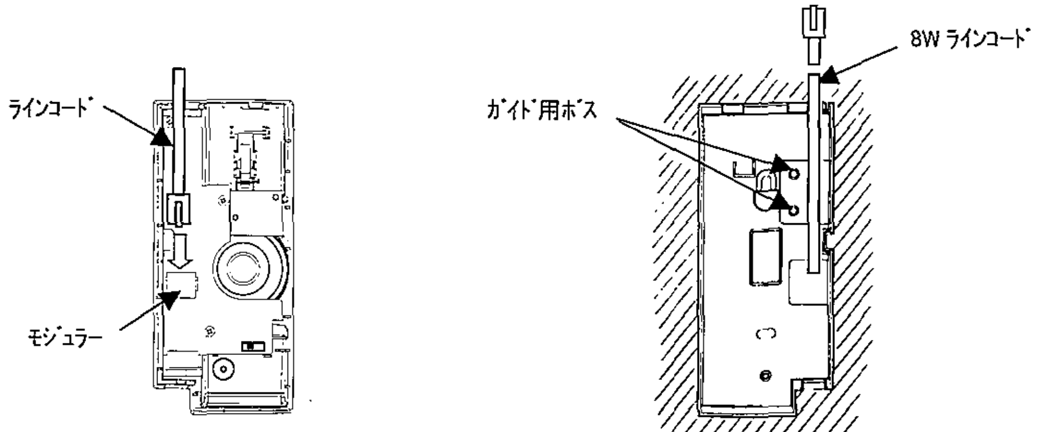


②ベースを壁面の所定位置に添付の固定用ネジにて固定します。配線が壁打抜きの場合は、ベースの配線枠をニッパ等で切取り、添付の8Wラインコードを通してから壁面に固定します。



③ハウジング側のモジュラーに添付の8Wラインコードを挿入します。

・通常配線の場合、8Wラインコードはベースのガイド用ボスの右側を通して、卓上用配線枠を切取ってから取出します。

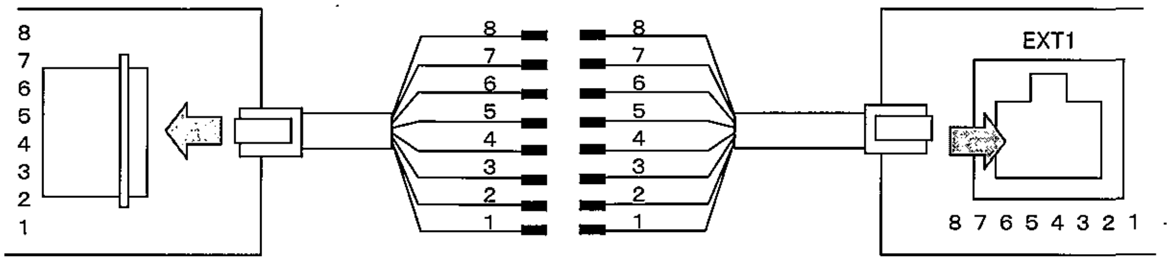


④8Wラインコード収容後、ハウジングをベースに固定し、ネジ止め・フサギ板をもとに戻します。

8．4．6 配線を延長する場合

配線を延長する場合、下図のように装置－受理用電話機間を配線し、延長して接続します。

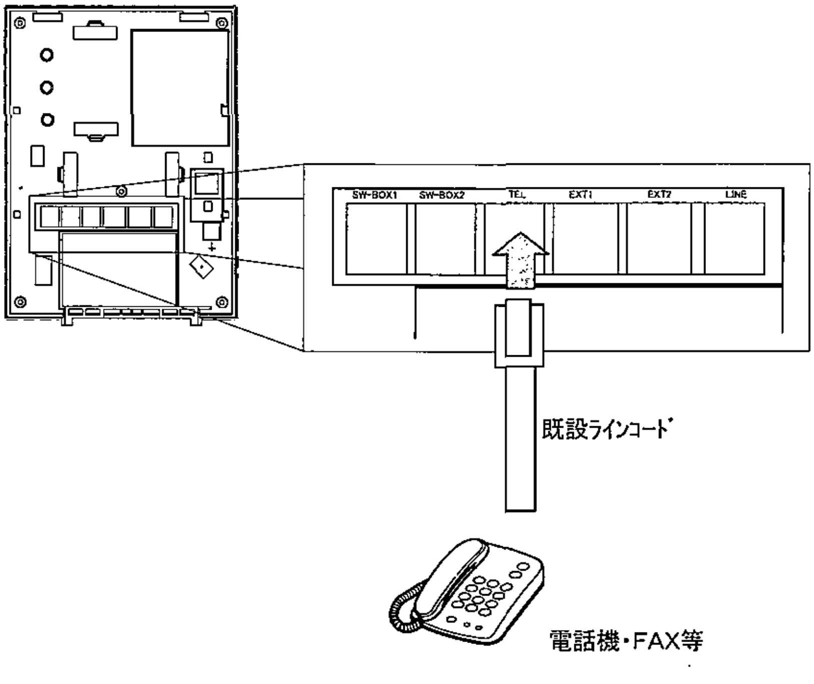
(1)装置－受理用電話機間



注意 ・誤った配線を行うと、装置や受理用電話機が破壊する恐れがあります。

8．4．7 電話装置の接続

既設の電話機やFAX等の電話装置は、本体のモジュラー端子[TEL]に既設のラインコードにて接続します。

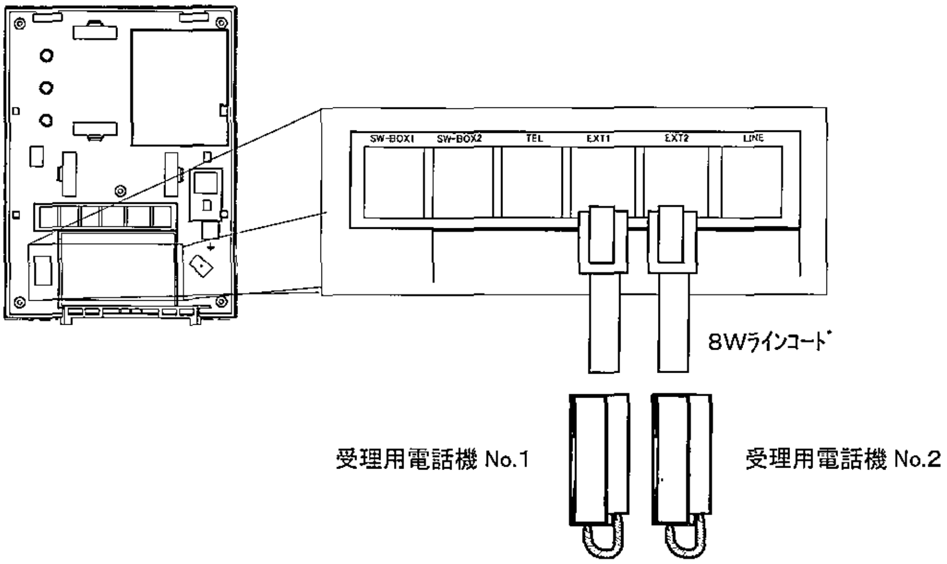


注意 **この時点で電話回線は接続しないでください。配線ミス等があると、110番誤報の恐れがあります。**

8．4．8 受理用電話機の接続

受理用電話機を、装置の EXT1（受理用電話機 No.1）へ接続します。同様に2台目は装置の EXT2(受理用電話機 No.2)へ接続します。配線は受理用電話機に添付の8Wラインコードを使用します。

＊2台目を接続する場合、システムデータA80を「12」に変更する必要があります。

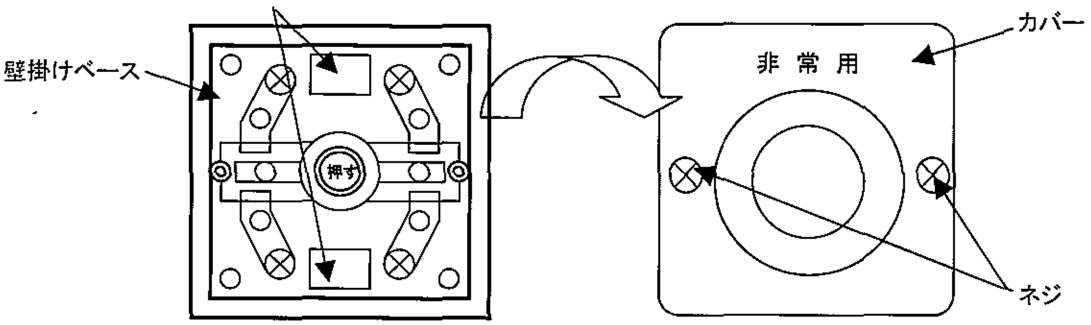


8．4．9 非常用押しボタンの接続

非常用押しボタンの故障診断（断線・混触・短絡）が必要な運用の場合、下記のように抵抗器を接続します。

（1）非常用押しボタンへの配線

①非常用押しボタンのネジをゆるめ、カバーをはずします。



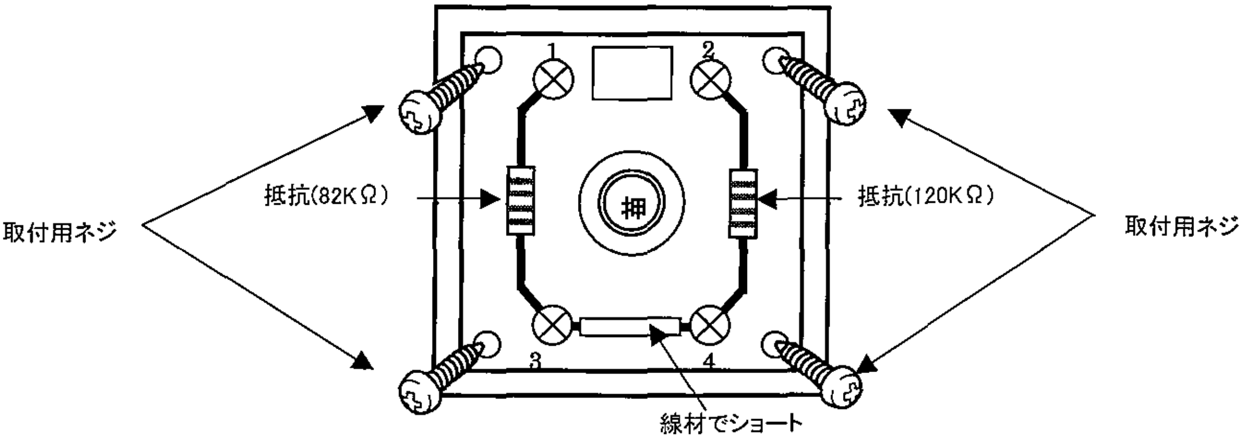
②入線口から配線を引き込んだ後、壁掛けベースを所定の壁面に添付の取付用ネジで固定します。

③非常用押しボタンのネジ端子1-3間に抵抗（82KΩ）を共閉めし固定します。

④非常用押しボタンのネジ端子2-4間に抵抗（120KΩ）を共閉めし固定します。

⑤非常用押しボタンのネジ端子3-4間に線材を共閉めしショートします。

非常用押ボタン（上面図）

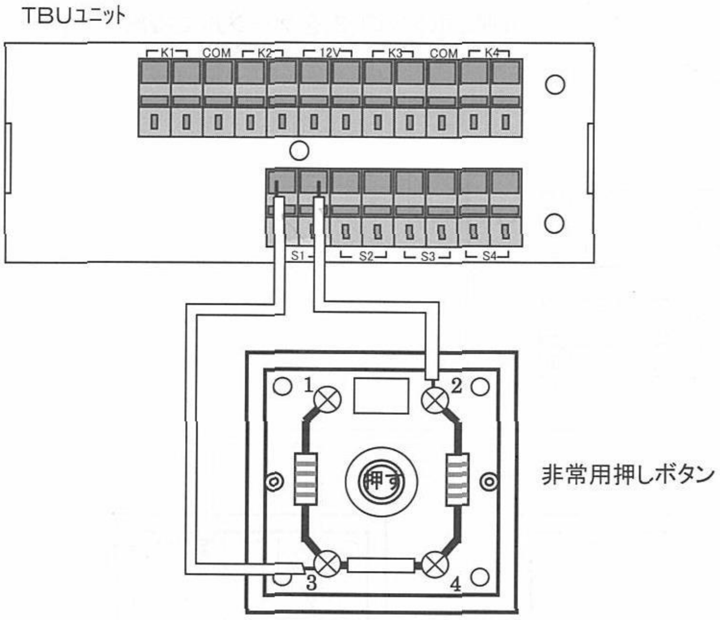


(2)非常用押しボタンの装置への接続

①TBU上のスクリューレスコネクタ【S1】の片方と非常用押しボタンの[2]をケーブルで接続します。

②TBU上のスクリューレスコネクタ【S1】の片方と非常用押しボタンの[3]をケーブルで接続します。

極性はありません。

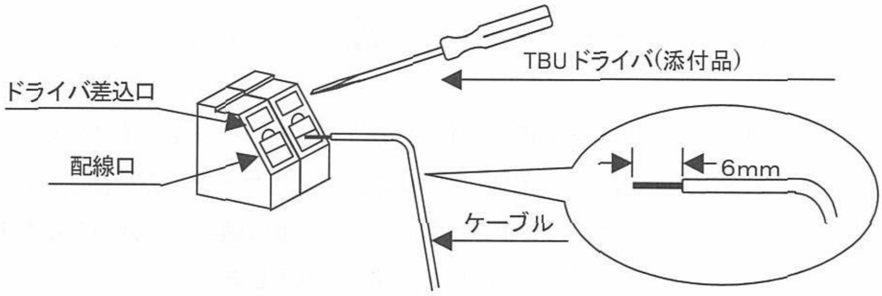


＊非常用押しボタンを複数台接続する場合、上記同様に【S2】から【S4】へ接続します。

＊TBU上への非常用押しボタン接続数は、故障診断が必要な運用の場合、最大4台までです。

(3)スクリューレスコネクタへの配線方法

下図のようにドライバーを使用し、ケーブルを差込み固定します。



作業手順

①ケーブルの芯線が6mm程度となるように被覆を切断します。
②ドライバ差込口にTBUドライバを差し込むと配線口が開きます。
※ドライバは強めに差し込んでください。
③配線口にケーブルを奥まで差し込みます。
④マイナスドライバを抜くと配線口が閉じケーブルが固定されます。
※配線口が芯線を固定しているか確認してください。

＊非常用押しボタンのカバーは、開通試験完了後に取り付けます。

（4）故障診断を行わない場合の非常用押しボタンの接続

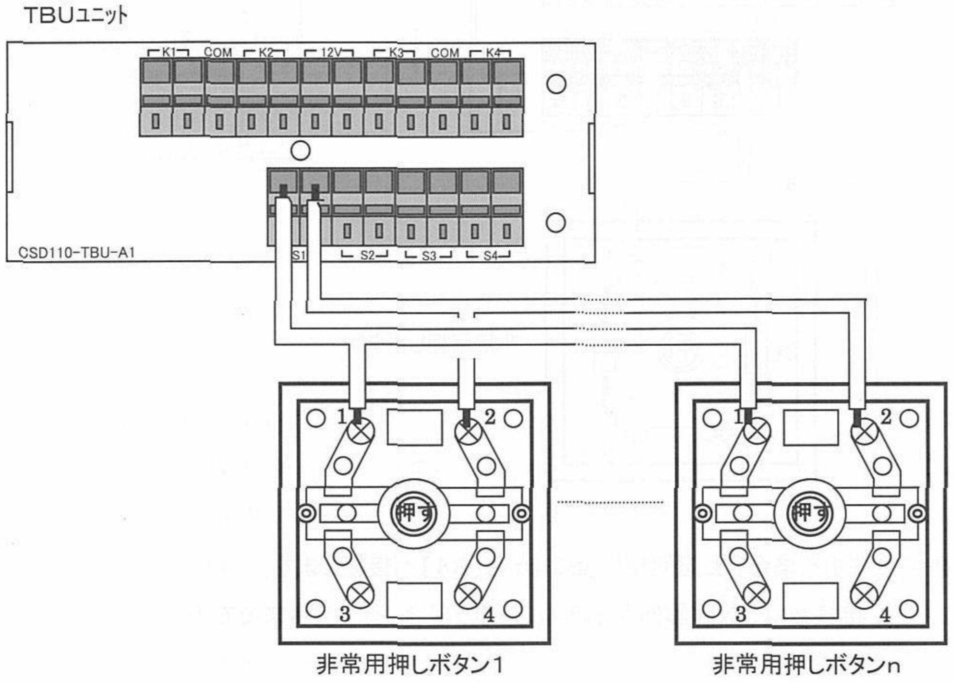
故障診断を行わない運用の場合は、【S1】から【S4】の端子にそれぞれ並列接続し、1端子あたり最大10台の非常用押しボタンを接続可能です。非常用押しボタンへの抵抗器等の接続は不要です。

この場合、システムデータA86の設定を「0」に変更する必要があります。

①TBU上のスクリューレスコネクタ【S1】の片方と非常用押しボタンの[1]をケーブルで接続します。

②TBU上のスクリューレスコネクタ【S1】の片方と非常用押しボタンの[2]をケーブルで接続します。

上記同様に【S2】から【S4】へ接続します。



（1≦n≦10）

8．4．10　非常用押しボタンの増設

故障診断含めた非常用押しボタンの運用を4台以上で行いたい場合、下記のように増設できます。

（1）配線

①装置のモジュラーコネクタ【SW-BOX1】と非常用押しボタンの[1] [2]をケーブルで接続します。

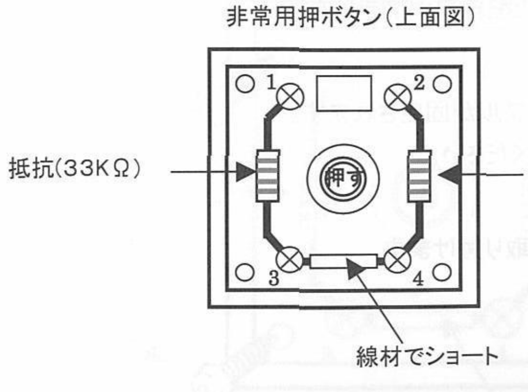
②装置のモジュラーコネクタ【SW-BOX2】と非常用押しボタンの[1] [2]をケーブルで接続します。

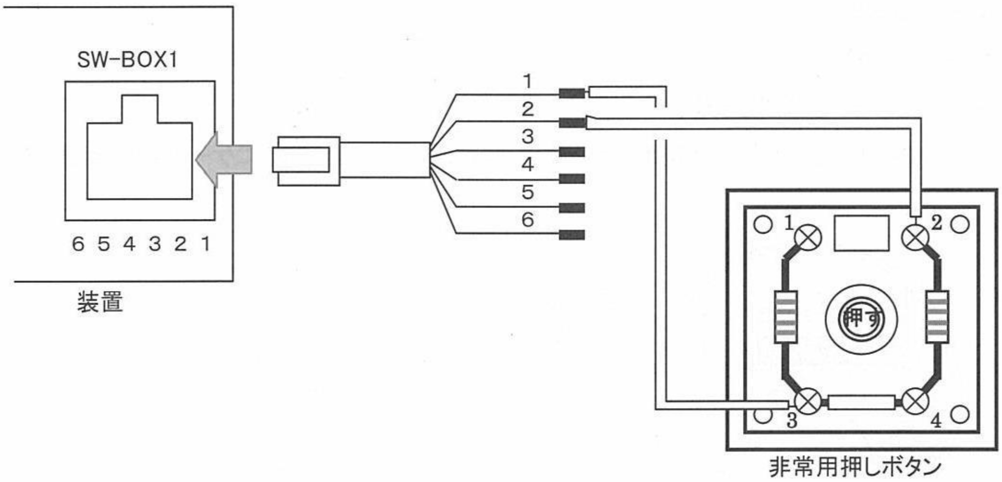
③非常用押しボタンへ抵抗器を固定します。抵抗器の定数は8．4．9項の値とは違いますので注意してください。

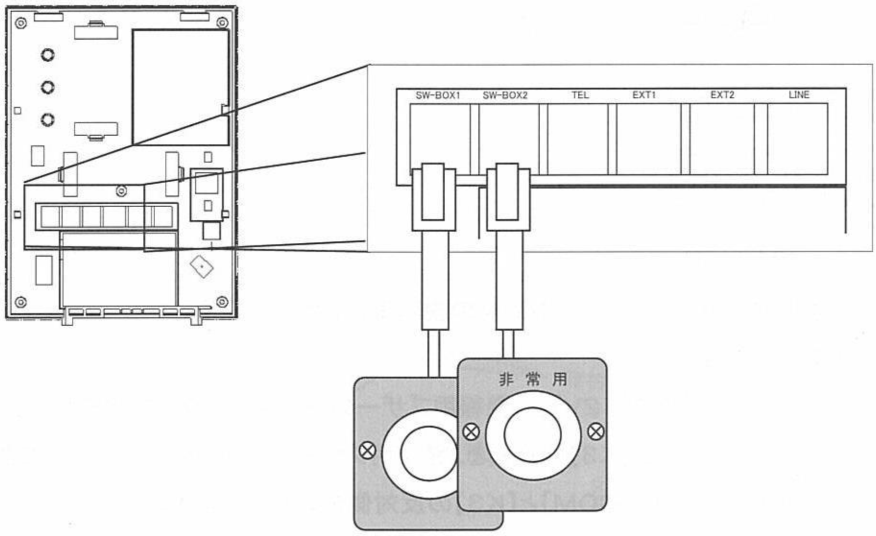
・非常用押しボタンのネジ端子1-3間に抵抗（33KΩ）を共閉めし固定します。

・非常用押しボタンのネジ端子2-4間に抵抗（47KΩ）を共閉めし固定します。

・非常用押しボタンのネジ端子3-4間に線材を共閉めしショートします。







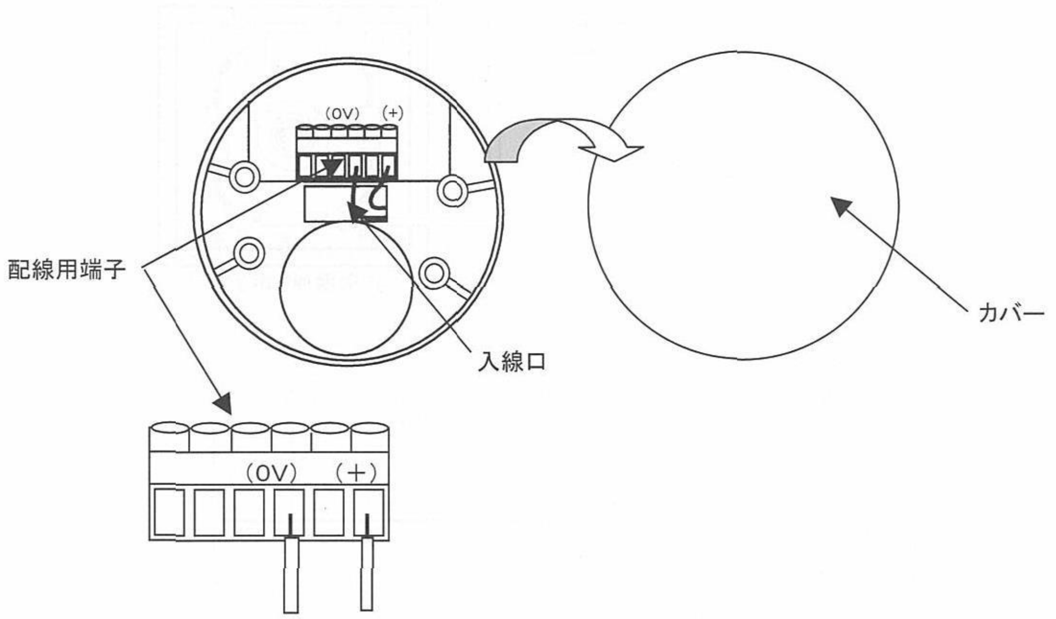
＊増設した非常用押しボタンは、装置に近接して設置してください。(配線長10m 以内)

8．4．11　発報用ブザーの配線

（1）発報用ブザーへの配線

①発報用ブザーのカバーをはずします。

②入線口から配線を引き込んだ後、発報用ブザーの配線用端子（＋）と（0V）にケーブルを接続します。



＊ブザー音の切替や設置方法等は、AS－88CW添付の説明書を参照願います。

（2）発報用ブザーの装置への接続

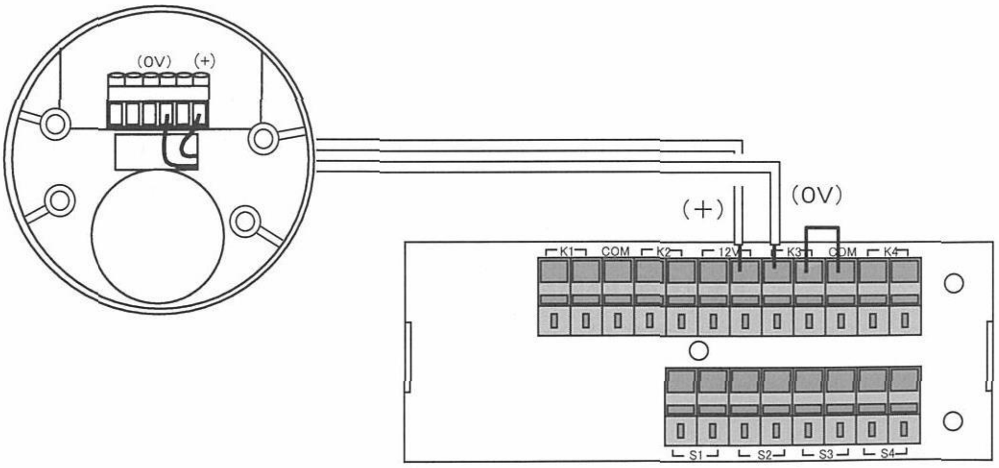
①TBU上のスクリューレスコネクタ【12V】と、発報用ブザーの（＋）をケーブルで接続します。

②TBU上のスクリューレスコネクタ【K3】の片側と、発報用ブザーの（0V）をケーブルで接続します。

③TBU上のスクリューレスコネクタ【COM】と【K3】の反対側をショートします。

【K3】に接続した場合、110通報終了にて鳴動を停止します。

＊TBU上のスクリューレスコネクタ【12V】の片側は、他配線があるため空けておいてください。



④配線終了後、配線間違い等がないことを確認した後、発報用ブザーのカバーを閉めます。

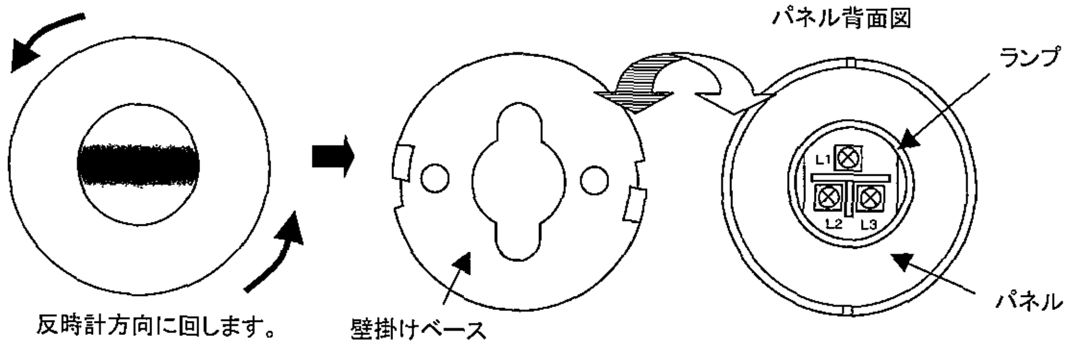
＊発報用ブザーを【K4】に接続した場合、110通報～近隣通報終了後に非常用押しボタン復旧にて鳴動を停止します。

＊発報用ブザーは初期状態では鳴動しない設定になっています。発報用ブザーを接続する場合は、システムデータA85を鳴動有りに設定してください。

8．4．12 CSD110 発報確認ランプの接続

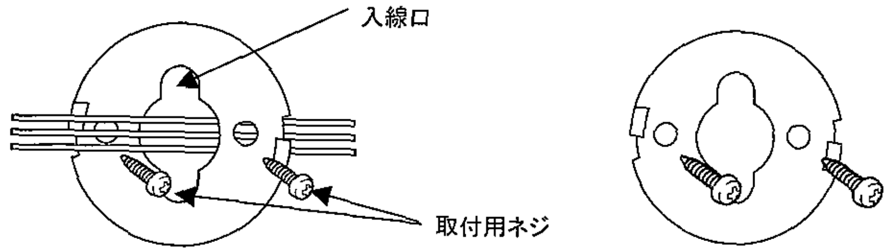
(1)CSD110 発報確認ランプ(以下発報確認ランプ)への配線

①発報確認ランプの壁掛けベースを手で支え、パネルを反時計方向に回してからはずします。

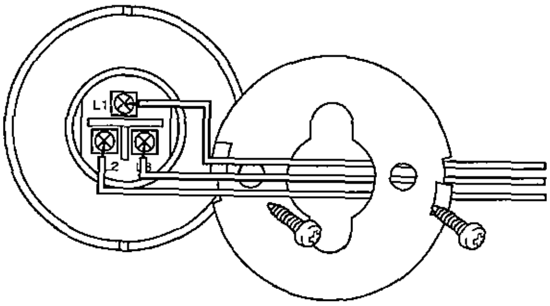


②・壁内配線の場合、入線口から配線を引き込んだ後、壁掛けベースを所定の壁面に添付のネジで固定します。

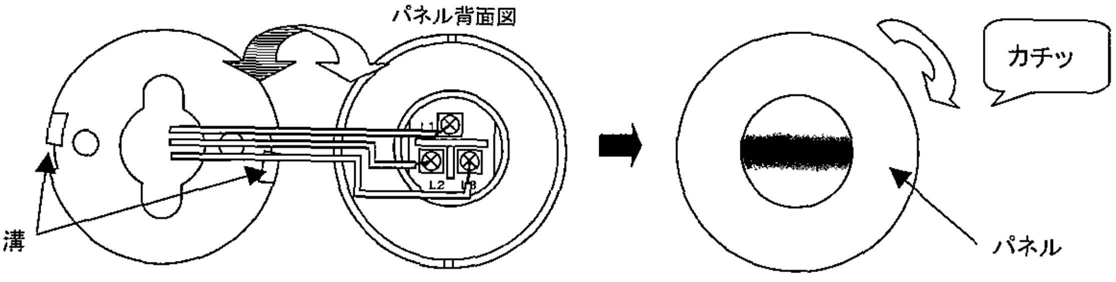
・壁面配線の場合、パネルの切り欠きから配線を通しますのでそのまま取付用ネジで固定します。



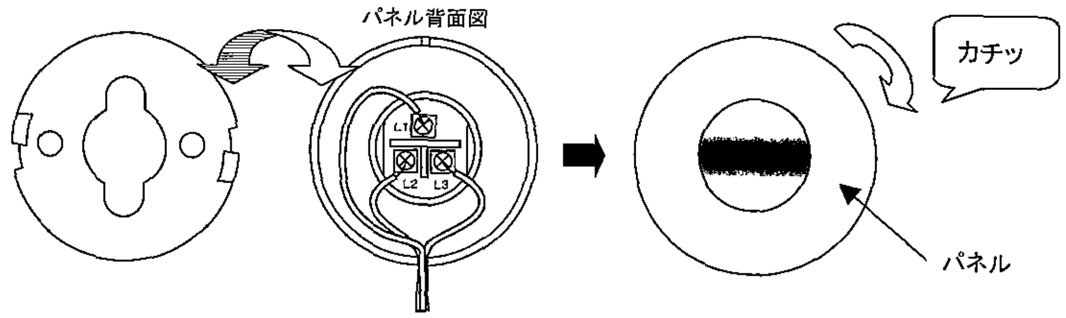
③発報確認ランプのL1、L2、L3にケーブルを接続します。



④・壁内配線の場合、パネルを壁掛けベースの溝に合わせ、時計方向にカチッと音がするまで回します。



・壁面配線の場合パネルの切り欠きから配線を通してベースに取付けます。



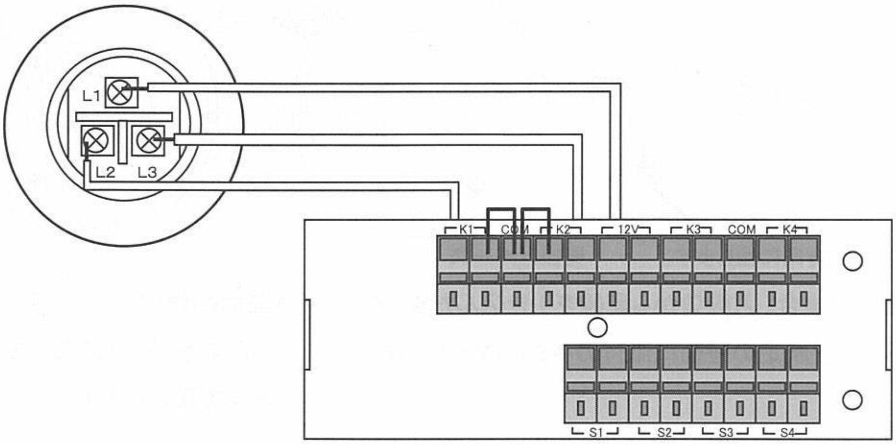
（2）発報確認ランプの接続

①TBU上のスクリューレスコネクタ【K1】の片方と、発報確認ランプのL2をケーブルで接続します。

②TBU上のスクリューレスコネクタ【K2】の片方と、発報確認ランプのL3をケーブルで接続します。

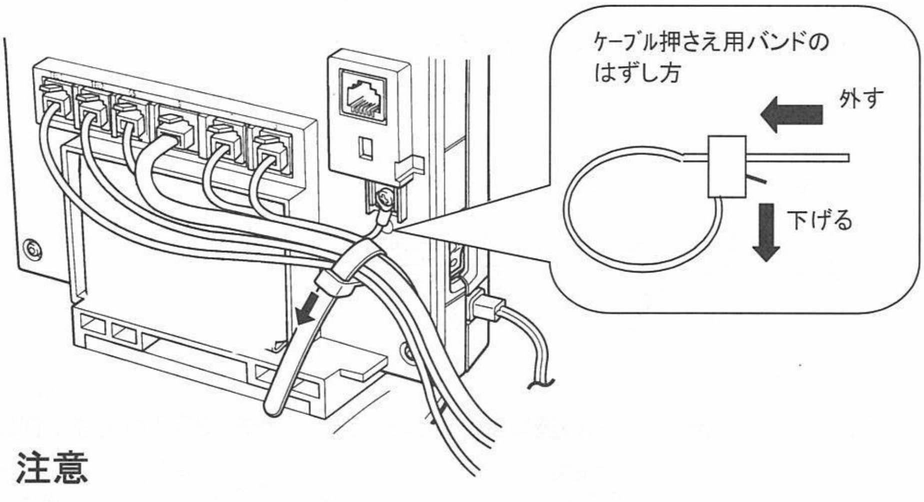
③TBU上のスクリューレスコネクタ【12V】と、発報確認ランプのL1をケーブルで接続します。

④TBU上のスクリューレスコネクタ【COM】と【K1】の片方を、【COM】と【K2】の片方をショートします。



8．4．13　装置内配線ケーブルの集線

下図のように配線ケーブルをケーブル押さえ用バンドで集線します。きれいに集線しないと、装置のカバーがきちんと閉じなくなります。



⚠ 注意

ケーブルバンド固定部の位置がケーブルの上にならないように注意してください。

9. 各種設定

設置工事完了後、電源を投入し下記の要領で通報メッセージの録音・再生やシステムデータの設定・確認を行います。

9．1　電源投入

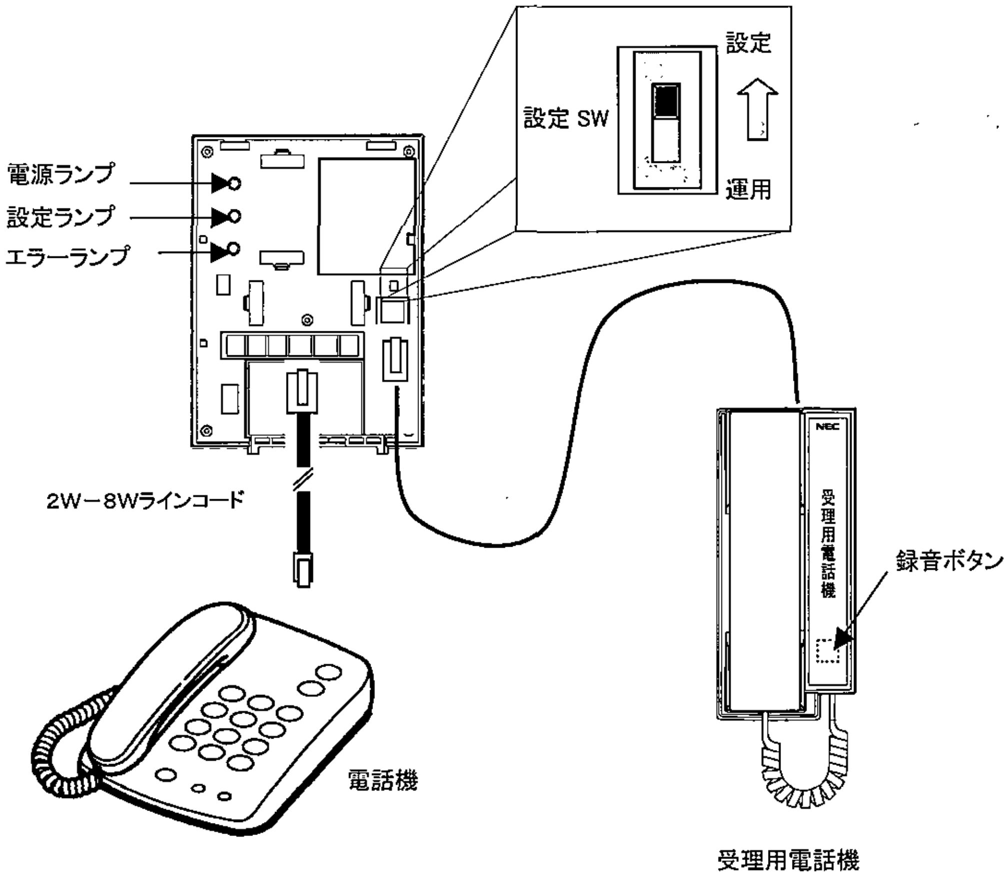
設定スイッチを設定側に切替えて、装置の電源スイッチをONすると、設定ランプが赤色点灯し、電源ランプが青色点灯します。

＊あらかじめシステムデータを登録しておき現場設置する場合は、電源投入後に設定**スイッチを設定側にして下さい。**

＊システムデータ設定後に設定スイッチを設定側にして電源の入り切りを行うと、システムデータは初期化されます。

9．1．1　音声の録音再生、およびシステムデータ設定・確認準備

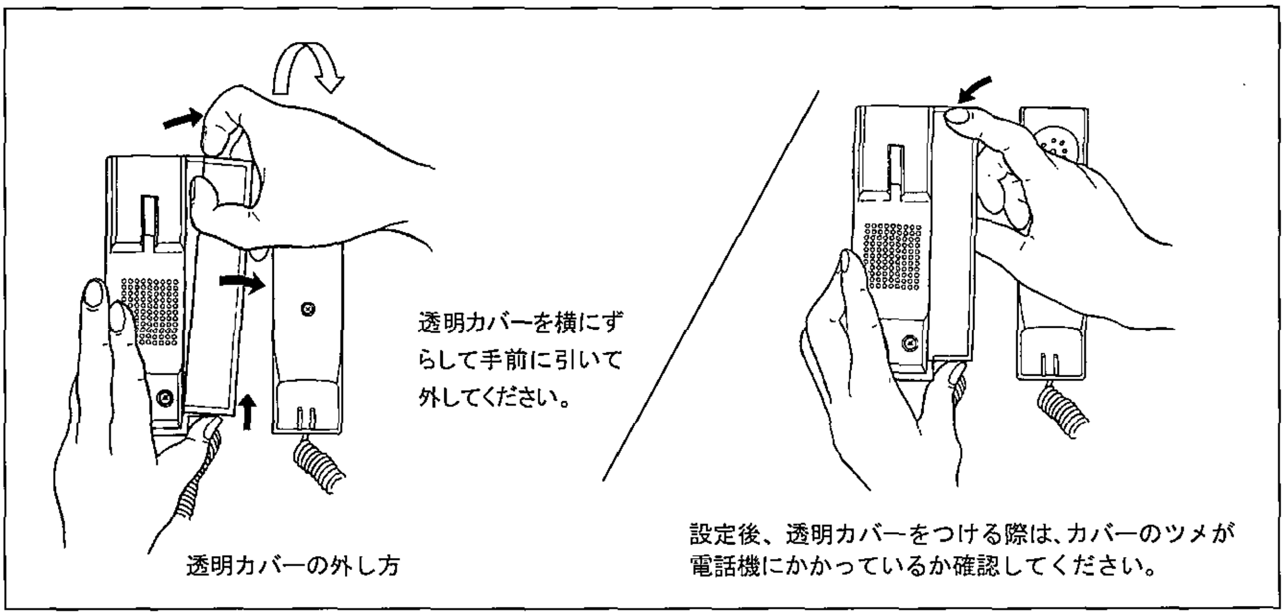
市販電話機（以下電話機）を使用してシステムデータの設定を行います。「EXT1」コネクタに接続されている受理用電話機を一旦取り外し、「INTEL」に接続し直します。添付の2W－8Wラインコードと、電話機に接続されているラインコードを交換してから、電話機を装置の「EXT1」コネクタへ接続します電話機の受話器を上げて、[1] [1] [0] [#] と順に押すと、「番号を入力してください」のガイダンスがされ、以後録音音声の録音・再生や、システムデータの設定確認を行うことができます。番号を入れ間違えた場合は、[＊]を押した後、再度 [1] [1] [0] [#] と押してください。



注意　システムデータの設定・変更および確認中は、本システムは運用停止となるため、一連の通報が出来なくなります。
事前にお客様の了解を得てから、運用に支障のないよう十分注意してください。
設定に使用する電話機は、接続されているラインコードを抜取り、添付の8W-2Wラインコード（黒色）を使用し、「EXT1」へ接続してください。他のラインコードを使用したり、違うコネクタに接続すると装置が破損します。

9．2　音声の録音・再生

通報メッセージの録音・再生は以下手順で行います。受理用電話機の録音ボタンは、透明カバーの下にありますので図のように透明カバーをはずしてください。



音声の録音・再生は、装置の「EXT1」コネクタへ接続した電話機と、「INTEL」に接続した受理用電話機を使用して行います。各種番号入力は電話機で行いますが、**<u>音声の録音は、「INTEL」に接続した受理用電話機を使用して行います。</u>**

9．2．1　録音音声の録音方法

①受理用電話機の受話器を上げます。

②フレーズ1へ録音します。電話機の受話器を上げて、# 4 0 と押し、一旦受話器を元に戻しておいてください。

③<u>録音ボタンを押しながら、</u>受理用電話機の受話器にて、音声を録音します。<u>録音ボタンを押している間は音声録音を継続</u>し、録音ボタンを離すと録音を終了します。

＜録音例＞「非常通報　非常通報。こちらは川崎市高津区北見方2－6－1のNEC小学校です。」

④次にフレーズ2へ録音します。電話機の受話器を上げて、# 4 1 と押し、一旦受話器を元に戻しておいてください

⑤<u>録音ボタンを押しながら、</u>受理用電話機の受話器にて、音声を録音します。<u>録音ボタンを押している間は音声録音を継続</u>し、録音ボタンを離すと録音を終了します。

＜録音例＞「逆信してください。」

＊<u>録音時間は最大24秒</u>です。24秒以内に収まるように録音してください。

9．2．2　録音をやり直す場合

(1)フレーズ1への上書き録音

建物名や所在地等を変更したい場合、フレーズ1への上書き録音が可能です。「9．2．1　録音音声の録音方法」に従い録音します。<u>録音時間は変更できません。</u>例えば現在フレーズ1に録音されている音声が10秒だった場合、上書き録音可能な時間は10秒になります。

(2)一括消去での録音

建物名や所在地等を変更したいが、録音時間が長くなる場合、一括消去後にフレーズ1，2を録音し直します。

①電話機の受話器を上げて、# 6 0 と押すと録音音声は一括消去されます。<u>フレーズ個別消去は出来ません。</u>

②消去が完了すると、受話器から「ピー」が送出されます。

9．2．3　録音音声の再生方法

電話機の受話器を上げて、録音した音声の再生を行い、録音音量や明瞭度等を確認します。

①フレーズ1を再生します。電話機にて、# 5 0 と押します。受話器から録音した音声が再生されます。

＜再生例＞「非常通報　非常通報。こちらは川崎市高津区北見方2－6－1のNEC小学校です。」

②次にフレーズ2を再生します。電話機にて、# 5 1 と押します。受話器から録音した音声が再生されます。

＜再生例＞「逆信してください。」

＊録音されていないフレーズを再生すると、「ピー」を送出します。

＊録音再生作業終了後、受理用電話機の透明カバーを元に戻し、受理用電話機を装置からはずしてください。

9．3　システムデータの設定・確認

システムデータの設定・変更および確認作業は、以下手順で行います。後述の「9．3．5表　システムデータ設定一覧」を確認しながら作業してください。

9．3．1　システムデータ設定作業

各種番号入力は電話機で行います。**管理センターに通報を行う場合、以下項目全ての設定が対象となります。**

管理センターや近隣住民へも通報を行わない場合、必要設定項目は限定されます。

この場合、後述「9．3．5表　システムデーター覧」のA19、A80、A83～A85のみが設定対象となります。

◆近隣通報宛先の設定

近隣住民や管理センターへの通報先を設定します。通報宛先は最大8宛先まで設定可能です。

設定項目	アドレスNo.	設定値		初期値	詳細説明
近隣通報先設定	A11	－	第1宛先	未設定	近隣通報先の電話番号を設定します。最大32桁、0～9を設定できます。 A19に設定した電話番号は、テスト通報用電話番号として固定されます。
	A12	－	第2宛先		
	A13	－	第3宛先		
	A14	－	第4宛先		
	A15	－	第5宛先		
	A16	－	第6宛先		
	A17	－	第7宛先		
	A18	－	第8宛先		
テスト通報先設定	A19	－	第0宛先		

＊テスト通報宛先へは必ず所定の電話番号を設定してください。

①第１宛先を設定します。管理センターに通報する場合は、第１宛先に電話番号を設定してください。

②電話機にて、# 2 1 1と押します。受話器から「電話番号11変更です」「番号を入力してください」「ピッ」が送出されます。誤った番号を入力すると「ピピッ」とエラー音が送出されます。(例えば# 3 と押した場合等)

番号の入力は、「ピッ」を確認後に行ってください。ガイダンス送出中の番号入力は無効です。

③「電話番号」＋#を入力します。電話番号は最大32桁設定できます。「＃」や「＊」は設定できません。

＜例＞ X X X # 「確認です。XXXです」「ピッ」と送出されます。

④途中で入力を間違えた場合、＊を押すと再度入力できます。

＜例＞ # 2 1 1と押したかったのに、# 1 と押してしまった

⇒ ＊を押すと、受話器から「番号を入力してください」「ピッ」が聞こえますので、# 2 1 1と押し直しできます。電話番号を間違えた場合も同様に再入力できます。

⑤電話番号を入力し終わってから、もう一度入力した電話番号を確認したい場合、#を押すと入力した電話番号が送出されます。「確認です。XXXです」「ﾋﾟｯ」と送出されます。

⑥電話番号の入力が正しい場合、0 # を押します。受話器から「電話番号11変更終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出されます。これで第1宛先への電話番号入力は終了です。

⑦電話番号設定をやめたい場合、0 # を押さずに、9 # を押します。受話器から「終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出され入力した電話番号は設定されません。

＊以後上記手順の繰り返しで、第2宛先以降の設定を行います。

＊**<u>A19(テスト通報宛先)は、テスト通報宛先の電話番号を設定</u>します。110番通報が許可されない場合、110番ダイヤルの代わりに自分の携帯電話番号等を設定し、開通試験時のテスト通報で仮想110番通報動作を行います。**

◆端末ID番号の設定

管理センターから付与された、端末IDを設定します。管理センターへの通報を行う場合のみ必要です。

設定項目	ｱﾄﾞﾚｽ No.	設定値		初期値	詳細説明
端末IDコード	A50	―	―	未設定	端末IDｺｰﾄﾞを設定します。最大8桁、0～9を設定できます。

①# 2 5 0と押します。「ID番号変更です」「番号を入力してください」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

②「ID番号」＋#を入力します。。最大8桁まで設定可能です。「＃」や「＊」は設定できません。

<例> X X X # 「確認です。XXXです」「ﾋﾟｯ」と送出されます。

③ID番号の入力が正しい場合、0 # を押します。「ID番号変更終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

④ID番号設定をやめたい場合、0 # を押さずに、9 # を押します。「終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出され、入力したID番号は設定されません。

◆接続済み受理用電話機No. の設定

接続したい受理用電話機No. を設定します。初期値では受理用電話機は1台をEXT1に収容するようになっています。

設定項目	ｱﾄﾞﾚｽ No.	設定値		初期値	詳細説明
接続済み受理用電話機No.	A80	1 2	電話機1 電話機2	1	接続している受理用電話機 No.を設定します。

2台接続したいときは、以下のように設定を変更します。

①# 2 8 0と押します。「番号80変更です」「番号を入力してください」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

②1 2 #を入力します。「確認です。1、2です」「ﾋﾟｯ」と送出されます。

③設定入力が正しい場合、0 # を押します。「番号80変更終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

④設定変更をやめたい場合、0 # を押さずに、9 # を押します。「終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出され、設定は変更されません。

◆IDコード送出方式の設定

管理センターに対し、各種通報を行うか否かを設定します。初期値では第1通報宛先に電話番号が設定された場合、管理センターにデータ通報するようになっています。

設定項目	ｱﾄﾞﾚｽ No.	設定値		初期値	詳細説明
IDコード送出方式	A81	0 1	音声 ﾃﾞｰﾀ	100 000 000	A11～A19 に設定した通報先に対し、通報ﾒｯｾｰｼﾞの送出方式を設定します。管理ｾﾝﾀｰ等へ通報する場合は【ﾃﾞｰﾀ】を設定します。

管理センターに通報しないときは、以下のように設定を変更します。

①[#] [2] [8] [1]と押します。「番号81変更です」「番号を入力してください」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

②[0] [0] [0] [0] [0] [0] [0] [0] [0] [#]を入力します。「確認です。000000000 です」「ﾋﾟｯ」と送出されます。

③設定入力が正しい場合、[0] [#] を押します。「番号81 変更終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

④設定変更をやめたい場合、[0] [#] を押さずに、[9] [#] を押します。「終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出され、設定は変更されません。

◆ダイヤル種別の設定

装置設置先電話回線のダイヤル種別を設定します。初期値ではDP20PPSが設定されています。

ダイヤル種別をNTTに確認し、必要に応じて設定を変更します。

設定項目	ｱﾄﾞﾚｽ No.	設定値			初期値	詳細説明
ダイヤル種別設定 1桁目:ﾀﾞｲﾔﾙ種別 2桁目:固定 3桁目:固定 4桁目:固定	A83	1 桁 目	0 1 2	DP 10PPS DP 20PPS PB	1	回線のﾀﾞｲﾔﾙ種別を設定します。
		2桁目:0固定			0	変更できません。
		3桁目:0固定			0	
		4桁目:0固定			1	

ダイヤル種別がPB(プッシュダイヤル)の場合、以下のように設定を変更します。

①[#] [2] [8] [3]と押します。「番号83変更です」「番号を入力してください」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

②[2] [0] [0] [1] [#]を入力します。「確認です。2001です」「ﾋﾟｯ」と送出されます。

③設定入力が正しい場合、[0] [#] を押します。「番号83変更終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

④設定変更をやめたい場合、[0] [#] を押さずに、[9] [#] を押します。「終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出され、設定は変更されません。

◆接続済み非常用押しボタンNo. の設定

接続している非常用押しボタンNo. を設定します。初期値でTBU上の【S1】に接続されている1台のみの設定です。

設定項目	ｱﾄﾞﾚｽ No.	設定値		初期値	詳細説明
接続済み非常用押しﾎﾞﾀﾝ No.	A84	1 2 3 4 5 6	非常押しﾎﾞﾀﾝ1 非常押しﾎﾞﾀﾝ2 非常押しﾎﾞﾀﾝ3 非常押しﾎﾞﾀﾝ4 非常押しﾎﾞﾀﾝ5 非常押しﾎﾞﾀﾝ6	1	接続している非常押しﾎﾞﾀﾝ No.を設定します。例えば4台接続する場合は[1]…[4]と設定します。 非常押しﾎﾞﾀﾝ No.1 はS1に、No.4 はS4に相当します。

非常用押しボタン台数を4台に増やしたい場合、以下のように設定を変更します。

①[#] [2] [8] [4]と押します。「番号84変更です」「番号を入力してください」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

②[1] [2] [3] [4] [#]を入力します。「確認です。1234です」「ﾋﾟｯ」と送出されます

③設定入力が正しい場合、[0] [#] を押します。「番号84変更終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

④設定変更をやめたい場合、0 # を押さずに、9 # を押します。「終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出され、設定は変更されません。

＊この場合、非常用押しボタンは、TBU上の【S1】～【S4】に接続します。

◆発報用ブザー鳴動指定の設定

接続している発報用ブザーにおいて、どの非常用押しボタンが押されたかによって鳴動する/鳴動しないを設定します。

初期値ではどの非常用押しボタンが押されても鳴動しない設定です。

設定項目	ｱﾄﾞﾚｽNo.	設定値		初期値	詳細説明
発報用ブザー鳴動指定	A85	0 1	鳴動しない 鳴動する	000 000	動作接点「K3」「K4」に接続されている発報用ブザーの鳴動有無を設定します。

例えば非常用押しボタン1，2が押されたときに発報用ブザーを鳴動させたい場合、以下のように設定を変更します。

①# 2 8 5と押します。「番号85変更です」「番号を入力してください」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

②1 1 0 0 0 0 #を入力します。「確認です。110000です」「ﾋﾟｯ」と送出されます。

③設定入力が正しい場合、0 # を押します。「番号85変更終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

④設定変更をやめたい場合、0 # を押さずに、9 # を押します。「終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出され、設定は変更されません。

◆非常用押しボタン故障診断有無の設定

接続している非常用押しボタンの故障診断（断線・短絡・混触）を行うか否かを設定します。

初期値では故障診断を行う設定です。

設定項目	ｱﾄﾞﾚｽNo.	設定値		初期値	詳細説明
非常用押しボタン故障診断有無	A86	0 1	故障監視なし 故障監視あり	1	非常用押しボタンの故障診断を行うか否かを設定します。

例えば故障診断を行わない運用の場合、以下のように設定を変更します。

①# 2 8 6と押します。「番号86変更です」「番号を入力してください」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

②0 #を入力します。「確認です。0です」「ﾋﾟｯ」と送出されます。

③設定入力が正しい場合、0 # を押します。「番号86変更終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

④設定変更をやめたい場合、0 # を押さずに、9 # を押します。「終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出され、設定は変更されません。

◆日付設定

日付を、西暦下2桁・月・日・曜日・時刻の計12桁で設定します。必ず日付を設定してください。

設定項目	ｱﾄﾞﾚｽNo.	設定値		初期値	詳細説明
日付設定 1,2 桁目　:年 3,4 桁目　:月 5,6 桁目　:日 7,8 桁目　:曜日 9－12 桁目:時刻	A96	1,2桁目	00～99(年)	未設定	装置への日付設定を行います。 必ず設定してください。
		3,4桁目	01～12(月)		
		5,6桁目	01～31(日)		
		7,8桁目	41:日～ 47:土(曜日)		
		9－12桁目	00:00～23:59		

例えば2001年12月23日(日)12時34分の場合、以下のように設定します。

①# 2 9 6と押します。「番号96変更です」「番号を入力してください」「ピッ」が送出されます。

②0 1 1 2 2 3 4 1 1 2 3 4 #を入力します。「確認です。011223411234です」「ピッ」と送出されます

③設定入力が正しい場合、0 # を押します。「番号96変更終了しました」「ピッ」が送出されます。

④設定変更をやめたい場合、0 # を押さずに、9 # を押します。「終了しました」「ピッ」が送出され、設定は変更されません。

◆回線断線警報設定

電話回線が断線した場合、どのような警報を行うかを設定します。初期値は受理用電話機スピーカから警報音を送出します。

設定項目	ｱﾄﾞﾚｽ No.	設定値		初期値	詳細説明
回線断警報方法	A97	0 1	警報音 ランプ点灯	0	回線が断線した場合、受理用電話機から警報音を送出するか、ｴﾗｰﾗﾝﾌﾟ点灯かを設定します。

警報音ではなくエラーランプ表示にしたい場合、以下のように設定します。

①# 2 9 7と押します。「番号97変更です」「番号を入力してください」「ピッ」が送出されます。

②1 #を入力します。「確認です。1です」「ピッ」と送出されます。

③設定入力が正しい場合、0 # を押します。「番号97変更終了しました」「ピッ」が送出されます。

④設定変更をやめたい場合、0 # を押さずに、9 # を押します。「終了しました」「ピッ」が送出され、設定は変更されません。

◆定時通報動作設定

管理センターに対し、定期的に通報を行うかを設定します。<u>管理センターがある運用の場合は、必ず定時通報を実施してください</u>。初期値は、毎月1日の10時00分に通報します。

設定項目	ｱﾄﾞﾚｽ No.	設定値			初期値	詳細説明
定時通報動作 1桁目 :有無 2,3桁目 :日付/曜日設定 4−7桁目:時刻設定	A98	1 桁目	0 1	有り 無し	0	A81 で[1]が設定されている通報宛先に対し定時通報を行うか否かを設定します。
		2,3 桁目	01～28(日) 41:日～47:土 (曜日)		01	1桁目で「有り」に設定した場合、2,3 桁目で設定した日付で定時通報を実行します。29 日以降は設定できません。
		4−7 桁目	00:00～23:59		10 00	1桁目で「有り」に設定した場合、4-7 桁目で設定した時刻で定時通報を実行します。

例えば毎週日曜日の23時00分に通報したい場合、以下のように設定します。

①# 2 9 8と押します。「番号98変更です」「番号を入力してください」「ピッ」が送出されます。

②0 4 1 2 3 0 0 #を入力します。「確認です。0412300です」「ピッ」と送出されます。

③設定入力が正しい場合、0 # を押します。「番号98変更終了しました」「ピッ」が送出されます。

④設定変更をやめたい場合、0 # を押さずに、9 # を押します。「終了しました」「ピッ」が送出され、設定は変更されません。

◆電池チェック動作設定

停電電池のチェックを定期的に行い、電池電圧が規定レベルを下回った場合、管理センターに対しに通報を行うかを設定します。管理センターがある運用の場合は、必ず電池チェックを実施してください。初期値は、毎月1日の10時00分に電池チェックを行います。

設定項目	ｱﾄﾞﾚｽ No.	設定値			初期値	詳細説明
電池チェック動作 1 桁目 :有無 2,3 桁目:日付/曜日設定 4−7 桁目:時刻設定	A99	1 桁目	0 1	有り 無し	0	停電電池のﾁｪｯｸを行うか否かを設定します。「有り」と設定すると、A81 で[1]が設定されている通報宛先に対し電池ﾁｪｯｸ結果通報を行います。
		2,3 桁目	1〜28(日) 41: 日 〜 47: 土 (曜日)		01	1桁目で「有り」に設定した場合、2,3 桁目で設定した日付で電池ﾁｪｯｸを実行します。 24 日以降は設定できません。
		4−7 桁目	00:00〜23:59		10 00	1桁目で「有り」に設定した場合、4-7 桁目で設定した時刻で電池ﾁｪｯｸを実行します。

例えば毎週日曜日の23時00分に電池チェックしたい場合、以下のように設定します。

①# 2 9 9と押します。「番号99変更です」「番号を入力してください」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

②0 4 1 2 3 0 0 #を入力します。「確認です。0412300です」「ﾋﾟｯ」と送出されます

③設定入力が正しい場合、0 # を押します。「番号99変更終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

④設定変更をやめたい場合、0 # を押さずに、9 # を押します。「終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出され、設定は変更されません。

※この後にテスト通報を行ないますので、設定スイッチは設定側のまましておいて下さい。

9．3．2　システムデータ個別消去

「9．3．5表」で初期値が「未設定」と記載されている項目（A11〜A19、A50、A96）において、設定した値を消去したい場合、以下のように行います。

①消去したい番号を指定します。例えば、第2通報宛先の電話番号を消去したい場合、# 2 1 2と押します。「電話番号12変更です」「番号を入力してください」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

②#を入力します。「確認です」「ﾋﾟ—」と送出されます

③0 # を押します。「電話番号12変更終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出されます。

④設定消去をやめたい場合、0 # を押さずに、9 # を押します。「終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出され、設定は変更されません。

9．3．3　システムデータ確認作業

システムデータの確認作業は、以下手順で行います。9．3．1項で行ったシステムデータの設定・変更結果を記載した「設定データ表」を確認しながら作業してください。設定確認は、装置の「EXT1」コネクタへ接続した電話機で行います。

◆近隣通報宛先の設定確認

近隣住民や管理センターへの通報先に設定した電話番号の確認を行います。

①電話機にて、# 1 1 1と押します。受話器から「電話番号11確認です」「XXXです」「電話番号11確認終了しました」「ﾋﾟｯ」が送出されます。誤った番号を入力すると「ピピッ」とエラー音が送出されます。（例えば# 3 と押した場合等）番号の入力は、「ピッ」を確認後に行ってください。ガイダンス送出中の番号入力は無効です。

＊以後上記手順の繰り返しで、第 2 通報宛先以降の確認を行います。

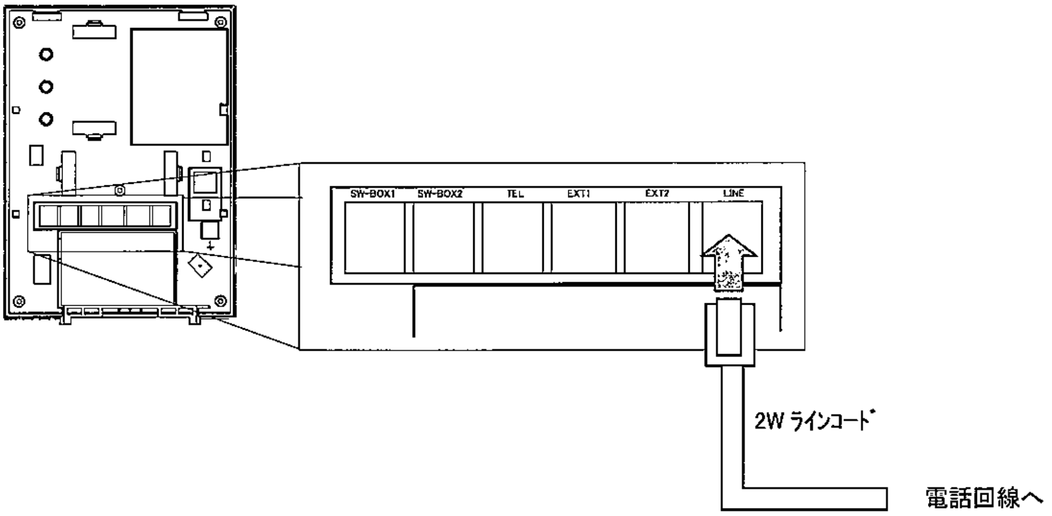
◆他設定確認

上記の要領で、A50～A99まで、必要に応じて確認を行います。

＊システムデータの設定、確認が終了したら添付の「設定データ表」に記載し、装置に貼り付ける等、紛失しないように大切に保管して下さい。

9．3．4 電話回線の接続

電話回線は、本体のモジュラー端子[LINE]に添付の2Wラインコードにて接続します。



注意

・電話回線に、他の電話装置をブランチ（親子）接続しないでください。

・キャッチホン等の付加サービスを利用すると、正常な動作が妨げられることがあります。

・専用線への接続は出来ません。

・電話回線の極性に注意してください。

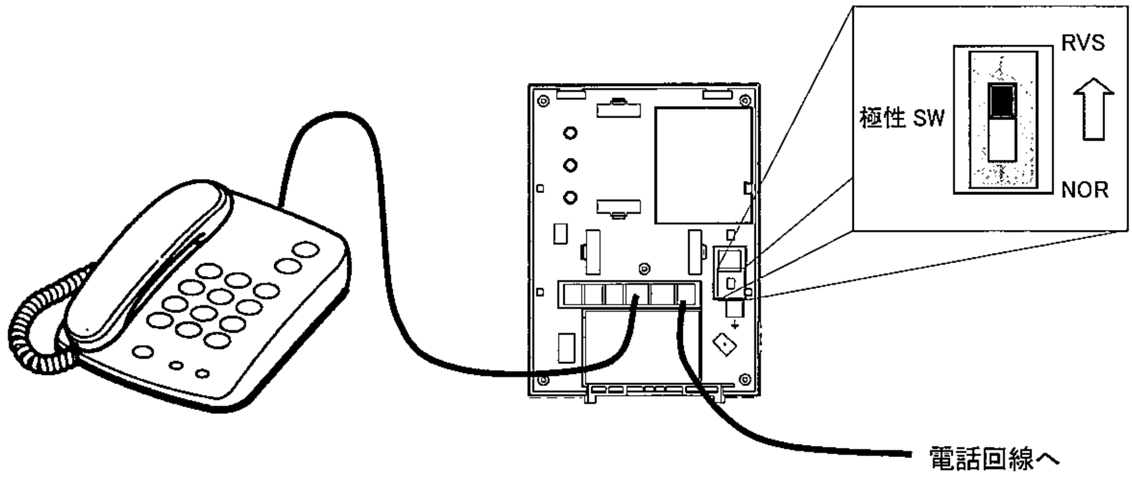
9．3．5 電話回線の極性確認

電話回線の極性確認を行います。回線接続から30秒以上経過してから本確認操作を行ってください。30秒以内に行うと回線極性が異常でも確認結果は正常と判定されます。

①電話機にて、# 1 9 7と押します。受話器から「番号97確認です」「0異常です」「番号97確認終了しました」「ピッ」が送出された場合、回線の極性が逆です。

②装置の極性SWを[NOR]側から[RVS]側に切替えた後、再度①の操作を繰り返します「番号97確認です」「0です」「番号97確認終了しました」「ピッ」が送出されると、回線の極性は正常です。

＊「9．3．1 システムデータ設定作業」でシステムデータA97を1に変更している場合、「0異常です」/「0です」は、「1異常です」/「1です」と送出されます。



9．3．6 システムデータの設定・確認の終了

以上でメッセージの録音やシステムデータの設定・確認作業は終了です。電話機にて[#] [0] [0] と押すと、システムデータを装置内のメモリに書込み、テストモードに移行します。

注意 ・[#] [0] [0] と押す前に装置の電源が切れた場合、それまで設定した内容は設定されずに無効となります。

・設定スイッチは設定側のままとし、10項以降に記載している開通試験を行ってください。

開通試験前に設定スイッチを運用側にすると、配線が正常に行われていない場合に誤報の恐れがあります。

9．3．5表 システムデータ一覧

設定項目	ｱﾄﾞﾚｽ No.	設定値		初期値	詳細説明
近隣通報先設定	A11 A12 A13 A14 A15 A16 A17 A18	－ － － － － － － －	第1宛先 第2宛先 第3宛先 第4宛先 第5宛先 第6宛先 第7宛先 第8宛先	未設定	近隣通報先の電話番号を設定します。最大32桁、0～9を設定できます。 A19に設定した電話番号は、ﾃｽﾄ通報用電話番号として固定されます。
テスト通報先設定	A19	－	第0宛先		
端末IDコード	A50	－	－	未設定	端末IDｺｰﾄﾞを設定します。最大8桁、0～9を設定できます。
接続済み受理用電話機No.	A80	1 2	電話機1 電話機2	1	接続している受理用電話機No.を設定します。
IDコード送出方式	A81	0 1	音声 ﾃﾞｰﾀ	100 000 000	A11～A19に設定した通報先に対し、通報ﾒｯｾｰｼﾞの送出方式を設定します。管理ｾﾝﾀｰ等へ通報する場合は【ﾃﾞｰﾀ】を設定します。
ダイヤル種別設定 1桁目：ﾀﾞｲﾔﾙ種別 2桁目：固定 3桁目：固定 4桁目：固定	A83	1桁目 0 1桁目 1 1桁目 2	DP 10PPS DP 20PPS PB	1	回線のﾀﾞｲﾔﾙ種別を設定します。
		2桁目：0固定		0	変更できません。
		3桁目：0固定		0	
		4桁目：1固定		1	
接続済み非常用押しﾎﾞﾀﾝNo.	A84	1 2 3 4 5 6	非常押しﾎﾞﾀﾝ1 非常押しﾎﾞﾀﾝ2 非常押しﾎﾞﾀﾝ3 非常押しﾎﾞﾀﾝ4 非常押しﾎﾞﾀﾝ5 非常押しﾎﾞﾀﾝ6	1	接続している非常押しﾎﾞﾀﾝNo.を設定します。例えば4台接続する場合は[1]…[4]と設定します。 非常押しﾎﾞﾀﾝ No.1 はS1に、No.4 はS4に相当します。
発報用ブザー鳴動指定	A85	0 1	鳴動しない 鳴動する	000 000	動作接点「K3」「K4」に接続されている発報用ブザーの鳴動有無を設定します。
非常用押しボタン故障診断有無	A86	0 1	故障監視なし 故障監視あり	1	非常用押しボタンの故障診断を行うか否かを設定します。
日付設定 1,2 桁目 ：年 3,4 桁目 ：月 5,6 桁目 ：日 7,8 桁目 ：曜日 9－12 桁目：時刻	A96	1,2 桁目	00～99(年)	未設定	装置への日付設定を行います。 必ず設定してください。
		3,4 桁目	01～12(月)		
		5,6 桁目	01～31(日)		
		7,8 桁目	41:日～ 47:土(曜日)		
		9－12 桁目	00:00～23:59		

設定項目	アドレス No.	設定値		初期値	詳細説明
回線断警報方法	A97	0 1	警報音 ランプ点灯	0	回線が断線した場合、受理用電話機から警報音を送出するか、ｴﾗｰﾗﾝﾌﾟ点灯かを設定します。
定時通報動作 1 桁目　:有無 2,3 桁目:日付/曜日設定 4−7 桁目:時刻設定	A98	1 桁目	0　有り 1　無し	0	A81 で[1]が設定されている通報宛先に対し定時通報を行うか否かを設定します。
		2,3 桁目	01～28(日) 41:日～47:土 (曜日)	01	1桁目で「有り」に設定した場合、2,3 桁目で設定した日付で定時通報を実行します。29 日以降は設定できません。
		4−7 桁目	00:00～23:59	10 00	1桁目で「有り」に設定した場合、4-7 桁目で設定した時刻で定時通報を実行します。
電池チェック動作 1 桁目　:有無 2,3 桁目:日付/曜日設定 4−7 桁目:時刻設定	A99	1 桁目	0　有り 1　無し	0	停電電池のﾁｪｯｸを行うか否かを設定します。「有り」と設定すると、A81 で[1]が設定されている通報宛先に対し電池ﾁｪｯｸ結果通報を行います。
		2,3 桁目	1～28(日) 41: 日 ～ 47: 土 (曜日)	01	1桁目で「有り」に設定した場合、2,3 桁目で設定した日付で電池ﾁｪｯｸを実行します。
		4−7 桁目	00:00～23:59	10 00	1桁目で「有り」に設定した場合、4-7 桁目で設定した時刻で電池ﾁｪｯｸを実行します。

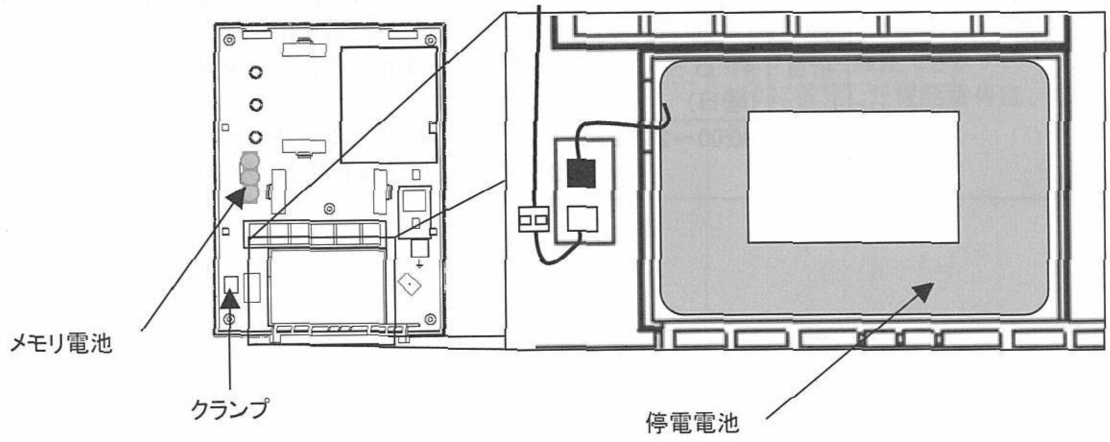
１０．設置・配線チェック

配線・設置工事およびシステムデータの設定・変更が終了したら、電池を接続し、再度配線の点検を行ってください。

１０．１　電池の取付

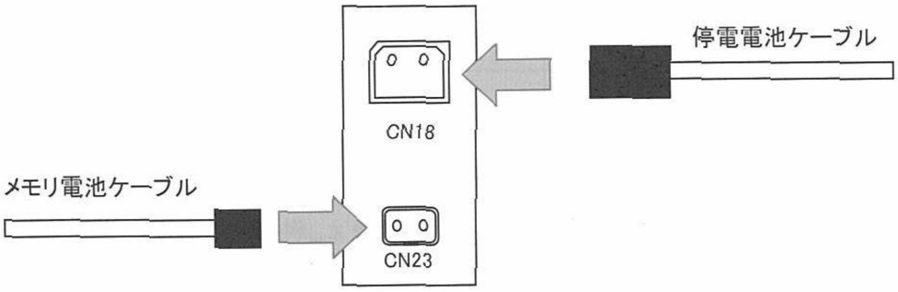
１０．１．１　電池の収納

停電バックアップ用ニッカド電池パック（以下停電電池）は、下図のように、装置内の電池収納スペースに収納し、各コネクタへ接続します。メモリバックアップ用ニッカド電池パック（以下メモリ電池）は、工場出荷段階で装置に収容されています。



１０．１．２　電池の接続

停電電池はCN１８へ接続します。メモリ電池はCN２３に接続します。



注意　装着向きに注意し、必ず所定のコネクタに差込んでください。

１１．開通試験の実施

工事依頼書の内容に従い、仕様どおりにシステムデータおよび配線がされているかを、実際に通報を行って確認します。
管理センターに通報しない場合、１１．２．３(３)以降の動作確認は不要となります。

１１．１　実報試験

110番への実報試験を行う場合、必ず許可を受けてから実施してください。
通報確認項目や手順等は、所轄の警察官等の指示に従ってください。
※110番への実報試験を行なう場合は、設定ｽｲｯﾁを運用側に切替えてから行なって下さい。

１１．２　テストモードでの試験

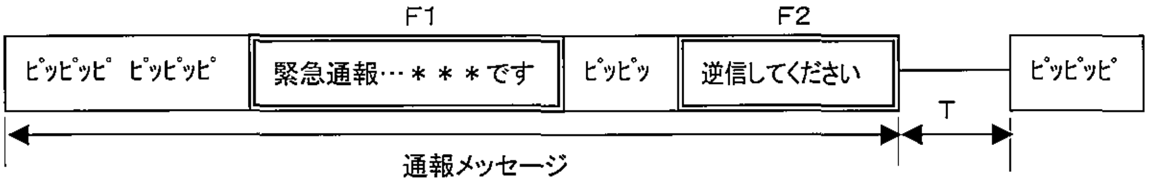
テスト通報は、設定スイッチを設定側に切替えて行ないます。一般回線を使用し、テスト通報宛先や近隣通報先に通報を行います。テスト通報宛先とは実際に110番への通報試験が許可されない場合、110番への通報と同等の動作を行うための通報宛先になります。自身の携帯電話機や容易に試験・確認が行える電話番号を登録します。
試験を行う場合は、必ずテスト通報宛先及び近隣通報宛先に対し、あらかじめその旨を連絡してから実施してください。

１１．２．１　非常用押しボタン通報

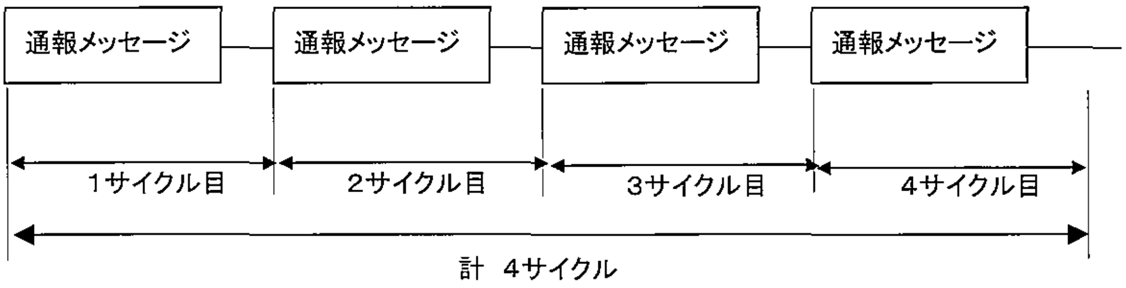
（１）テスト通報宛先への通報

①非常用押しボタンを押すとエラーランプが点灯し、A19で設定したテスト通報宛先に対し自動ダイヤルします。
②発報確認ランプが接続されている場合、発報確認ランプが緑色点灯します。
③発報用ブザーが接続されている場合、鳴動します。(システムデータA85の設定による)
④テスト通報宛先が応答すると録音した通報メッセージを先頭から送出します。通報メッセージは少なくとも2サイクル聴取し、良好であることを確認してください。通報メッセージは、下図のサイクルで送出します。

例）F1:【緊急通報　緊急通報　こちらはNECi小学校です。＊＊＊です】
F2:【逆信してください】



T:メッセージ間休止時間(約6秒)



⑤通報メッセージ送出中に受理用電話機の受話器を上げると、テスト通報宛先と通話を行います。
⑥発報確認ランプが接続されている場合、発報確認ランプが緑色から赤色点灯に変わります。
⑦[K3]端子に発報用ブザーが接続されている場合、鳴動を停止します。[K4]端子に発報用ブザーが接続されている

場合、鳴動継続します。

⑧通報メッセージは4サイクル送出し、その間に受理用電話機の受話器を上げなかった場合、テスト通報宛先への通報を終了します。通話し忘れた、再度通話したい場合は、近隣通報終了後に①から繰り返してください。

⑨受理用電話機の受話器を戻すと回線を開放し、テスト通報宛先への通報を終了します。

(2)近隣通報(近隣住民に音声通報を行う場合)

テスト通報宛先への通報終了後、近隣住民に対し、音声にて通報します。必要なシステムデータは以下2項目あります。いずれかのシステムデータ設定に抜けがあると通報を行いません。

・A11～A18のいずれかに近隣通報宛先を設定している

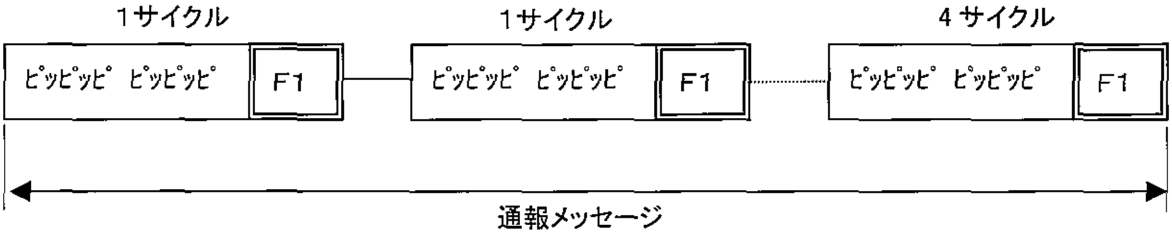
・A81で音声通報と設定した宛先がある

①テスト通報宛先への通報が終了すると、近隣宛先に自動ダイヤルします。

②近隣通報宛先が応答すると通報メッセージを送出します。F2のフレーズは送出しません。

例) F1:【緊急通報　緊急通報　こちらはNEC小学校です。＊＊＊です】

F2:【逆信してください】



③近隣通報宛先でメッセージ確認後(最低1サイクル)、回線を開放すると、近隣通報を終了します。

④近隣通報宛先が複数設定されている場合、順次通報を行います。

⑤近隣通報終了後、非常用押しボタンを復旧させると、発報確認ランプが消灯・発報用ブザー停止([K4]に接続されている場合)・エラーランプは消灯します。

＊<u>テスト通報～近隣通報が完了したら、各通報宛先に通報が正常に行われたかどうかを確認してください。</u>

(3)近隣通報(管理センターにデータ通報を行う場合)

テスト通報宛先への通報終了後、管理センターに対し、データにて通報します。

必要なシステムデータは以下3項目あります。いずれかのシステムデータ設定に抜けがあると通報を行いません。

・A11～A18のいずれかに近隣通報宛先が設定している

・A50で端末IDコードを設定している

・A81でデータ通報と設定した宛先がある(管理センターの電話番号は、基本的にA11に設定)

①テスト通報宛先への通報が終了すると、管理センターに自動ダイヤルします。
(A11に管理センターの電話番号設定時)

②管理センターが自動応答すると、データを送出します。

③通報データ送出後、回線を開放します。

④近隣通報宛先が複数設定されている場合、順次通報を行います。

11．2．2　非常用押しボタン故障通報

管理センターに対し、非常用押しボタン故障通報をデータで行います。

必要なシステムデータは以下3項目あります。いずれかのシステムデータ設定に抜けがあると通報を行いません。

~~・A11～A18のいずれかに近隣通報宛先が設定している~~

・A50で端末IDコードを設定している

・A81でデータ通報と設定した宛先がある（管理センターの電話番号は、基本的にA11に設定）

A19に設定しているテスト通報宛先には通報を行いません。

（1）非常用押しボタン断線通報

①非常用押しボタンを断線状態（装置に接続されている配線をはずす等）にすると、管理センターに対し自動ダイヤルします。

②管理センターが応答すると、非常用押しボタン断線データを送出します。

③非常用押しボタン断線データ送出後、回線を開放します。

④管理センターを複数設定している場合、順次非常用押しボタン断線データ通報を行います。
　音声通報に設定されている宛先に対しては通報を行いません。

⑤通報終了後、非常用押しボタンの配線を元に戻します。

⑥非常用押しボタンが複数設置されている場合、同様に全数試験します。

（2）非常用押しボタン短絡通報

①非常用押しボタンを短絡状態（装置に接続されている配線を短絡する）にすると、管理センターに対し自動ダイヤルします。

②管理センターの受信装置が自動応答すると、非常用押しボタン短絡データを送出します。

③非常用押しボタン短絡データ送出後、回線を開放します。

④管理センターを複数設定している場合、順次非常用押しボタン短絡データ通報を行います。
　音声通報に設定されている宛先に対しては通報を行いません。

⑤通報終了後、非常用押しボタンの配線を元に戻します。

⑥非常用押しボタンが複数設置されている場合、同様に全数試験します。

＊非常用押しボタン故障通報が終了したら、各通報宛先に通報が正常に行われたかどうかを確認してください。

11．2．3　停電/復電通報

管理センターに対し、停電/復電通報をデータで行います。

必要なシステムデータは以下3項目あります。いずれかのシステムデータ設定に抜けがあると通報を行いません。

・A11～A18のいずれかに近隣通報宛先が設定している

・A50で端末IDコードを設定している

・A81でデータ通報と設定した宛先がある（管理センターの電話番号は、基本的にA11に設定）

また、A19に設定しているテスト通報宛先には通報を行いません。

（1）停電通報

①停電状態（装置電源スイッチを切る等）が30秒間継続すると、管理センターに対し自動ダイヤルします。

②管理センターが応答すると、停電データを送出します。

③停電データ送出後、回線を開放します。

④管理センターを複数設定している場合、順次停電データ通報を行います。

音声通報に設定されている宛先に対しては通報を行いません。

⑤通報終了後、電源スイッチを元に戻します。

（2）復電通報

①復電状態（装置電源スイッチも元に戻す等）が30秒間継続すると、管理センターに対し自動ダイヤルします。

②管理センターが応答すると、復電データを送出します。

③復電データ送出後、回線を開放します。

④管理センターを複数設定している場合、順次復電データ通報を行います。

音声通報に設定されている宛先に対しては通報を行いません。

11．2．4　運用モードへの移行

上記試験が完了し、エラーランプが消灯していることを確認したら、装置の設定スイッチを運用側に切替えてください。

設定ランプが消灯し、運用モードに移行します。

11．2．5　運用モードへの強制切替

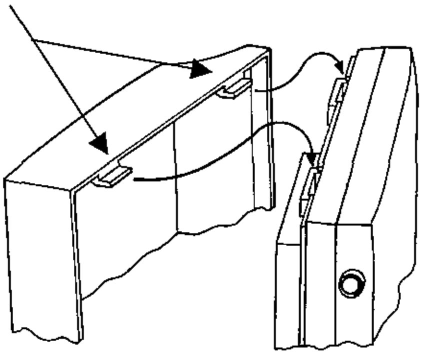
電源投入し、設定スイッチを設定側に切替え約2時間経過すると、設定途中でも強制的に運用ﾓｰﾄﾞへ切替えます。

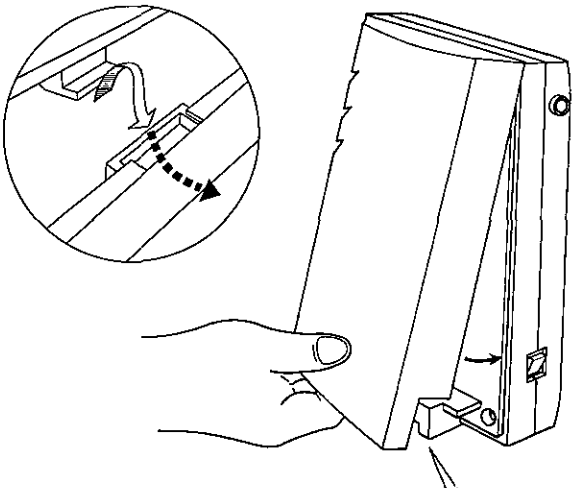
11．2．6　開通試験終了

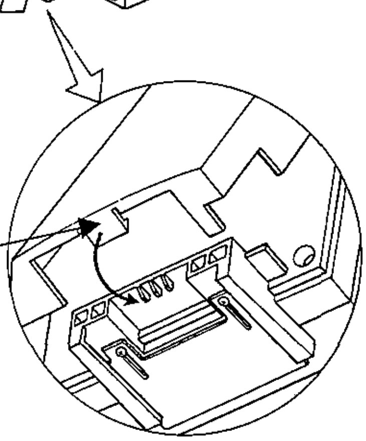
開通試験が完了したら、非常用押しボタン、発報用ブザー、発報確認ランプ及び装置のカバーを元に戻してください。

＜装置カバーの閉め方＞

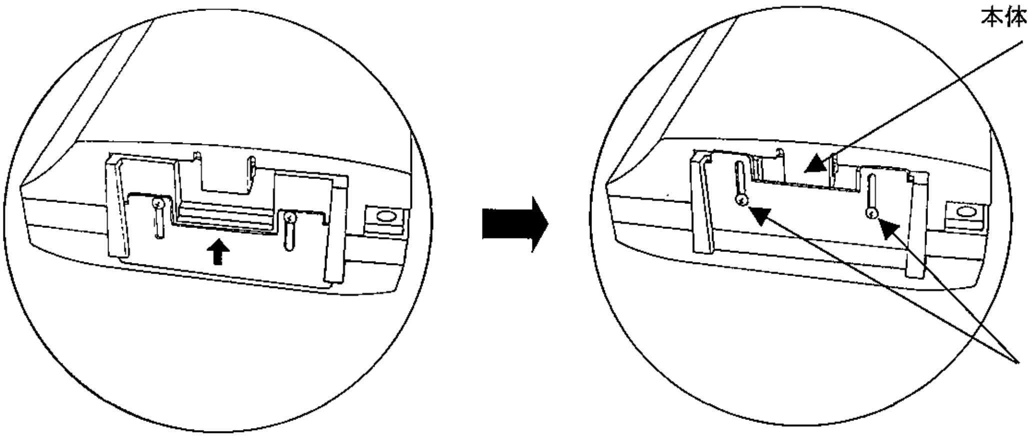
①本体カバーの上部つめをハウジングに引っ掛けます。
　奥までしっかりとはめ込んでください。







②本体カバーの下部つめをハウジングに引っ掛けます。
　パチッと音がするまではめ込んでください。



③本体カバーを閉めた後、スライドカバーを本体カバーのツメにかかるようにずらしてスライドカバーの固定ネジ（特殊ネジ）を専用ドライバーでしめてください。

取扱説明編

12. 機能および動作概要

12. 1　非常用押しボタン動作

非常用押しボタンを押すと、110番に自動通報します。

12. 1. 1　110番通報

①設定スイッチが運用側の状態で非常用押しボタンを押すと、110番に自動通報します。同時に装置に接続している発報用ブザーが鳴動し、発報確認ランプが緑色点灯します。発報用ブザーはシステムデータの設定により、鳴動させない運用も可能です。初期値は「鳴動しない」になっています。

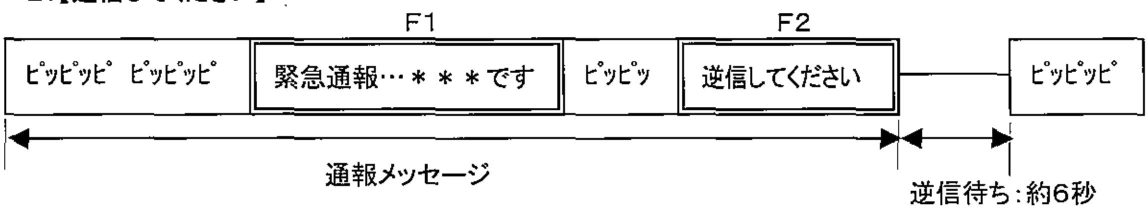
②110番ダイヤル後、話中音を検出すると、110番指令台が話中と判断し、一旦回線を開放します。再通報は110番指令台応答検出まで無限に行います。

③110番ダイヤル後、110番指令台が応答すると通報メッセージを送出します。F1、F2に通報メッセージが録音されていない場合、通報メッセージを送出しません。

④通報メッセージ送出後、一旦回線を開放し、110番指令台からの逆信（着信信号）を約6秒間待ちます。

例）F1:【緊急通報　緊急通報　こちらはNEC小学校です。＊＊＊です】

F2:【逆信してください】



⑤逆信待ち時間の間に着信信号を検出すると、110指令台からの逆信と判断し、発報確認ランプが緑色から赤色に変わり、接続されている受理用電話機のスピーカから着信音「ジリリリン」を送出します。着信音は着信信号に同期して送出します。装置の[K3]端子に発報用ブザーを接続している場合は、鳴動が停止します。

⑥着信音送出後、または着信信号送出中に受理用電話機の受話器を上げると、110番指令台と通話を行います。110番指令台と受理用電話機が通話中に他の受理用電話機の受話器を上げても通話できません。

⑦110番指令台と通話中に30秒間会話がなかった場合、110番指令台側が終話したと判断し、110番通報を終了します。

⑧110番通報終了後、近隣通報を行わない場合、非常用押しボタンを復旧させると、発報確認ランプが消灯・発報用ブザー停止（[K4]に接続されている場合）・エラーランプは消灯します。

12. 1. 2　近隣への通報動作

110番通報後、システムデータでA11～A18に近隣通報宛先が設定されていると、近隣宛先に対し通報を行います。システムデータの設定により、近隣住民への音声による通報か、管理センターへのデータ通報かを選択します。

（1）近隣通報（音声通報）

近隣住民に対し、音声にて通報します。

必要なシステムデータは以下2項目あります。いずれかのシステムデータ設定に抜けがあると通報を行いません。

・A11～A18のいずれかに近隣通報宛先が設定している

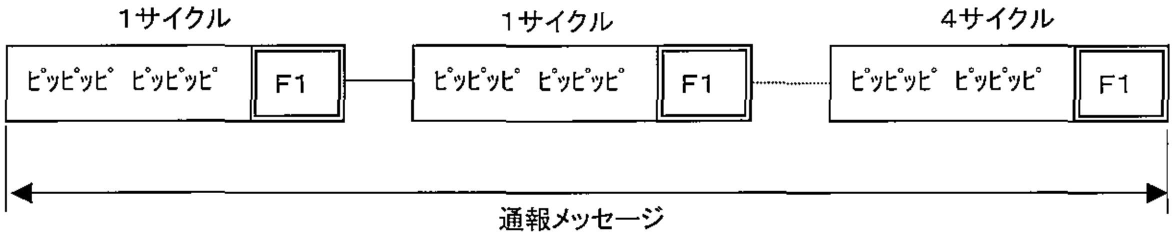
・A81で音声通報と設定した宛先がある

①110番通報が終了すると、近隣通報先に自動ダイヤルします。

②近隣通報宛先が応答すると通報メッセージを送出します。F2のフレーズは送出しません。

例） F1:【緊急通報　緊急通報　こちらはNEC小学校です。＊＊＊です】

F2:【逆信してください】



③近隣宛先が応答し、通報メッセージを1サイクル以上確認後に近隣宛先が終話すると、近隣通報を終了します。
1サイクル送出の途中で近隣宛先が終話すると、相手不応答と判断し再度通報を行います。

④近隣通報宛先が複数設定されている場合、順次通報を行います。

⑤近隣通報終了後、非常用押しボタンを復旧させると、発報確認ランプが消灯・発報用ブザー停止（[K4]に接続されている場合）・エラーランプは消灯します。

（2）近隣通報（データ通報）

管理センターに対し、データにて通報します。

必要なシステムデータは以下3項目あります。いずれかのシステムデータ設定に抜けがあると通報を行いません。

・A11～A18のいずれかに近隣通報宛先が設定している

・A50で端末IDコードを設定している

・A81でデータ通報と設定した宛先がある（管理センターの電話番号は、基本的にA11に設定）

①110番通報が終了すると、管理センターに自動ダイヤルします。

②管理センターが話中や不応答時、データ送信失敗時は再度通報を繰り返し行います。最初の通報と合わせ、計10回行います。

③管理センターが応答すると、データを送信します。

④通報が問題なく行われた場合、通報を終了します。通報が失敗した場合、再度通報を繰り返し行います。最初の通報と合わせ、計10回行います。

⑤近隣通報宛先が複数設定されている場合、順次通報を行います。

⑥通報失敗（所定回数呼出しても相手話中・不応答、または通信エラー）した場合、エラーランプが点滅します。
エラーランプの復旧方法は後述の「12．2．2　通報失敗履歴通報」を参照してください。

⑦近隣通報終了後、非常用押しボタンを復旧させると、発報確認ランプが消灯・発報用ブザー停止（[K4]に接続されている場合）・エラーランプは消灯します。

12．2　その他の通報

近隣通報先に管理センターがある場合、非常用押しボタンの故障通報や通報失敗履歴通報を行うことが出来ます。

必要なシステムデータは以下3項目あります。いずれかのシステムデータ設定に抜けがあると通報を行いません。

・A11～A18のいずれかに近隣通報宛先が設定している

・A50で端末IDコードを設定している

・A81でデータ通報と設定した宛先がある（管理センターの電話番号は、基本的にA11に設定）

12．2．1　非常用押しボタン故障通報

①接続している非常用押しボタンの故障（断線/短絡/混触）を検出すると、近隣通報宛先に設定されている管理セン

ターに故障通報を行います。発報用ブザーや発報確認ランプは動作しません。
②管理センターが話中や不応答時は再度通報を繰り返し行います。最初の通報と合わせ、計10回行います。
③管理センターが応答すると、データを送信します。
④通報が問題なく行われた場合、通報を終了します。データ通報が失敗した場合、再度通報を繰り返し行います。
最初の通報と合わせ、計10回行います。
⑤近隣通報宛先が複数設定されている場合、順次通報を行います。
⑥通報失敗(所定回数呼出しても相手話中・不応答、または通信エラー)した場合、エラーランプが点滅します。
エラーランプの復旧方法は後述の「12. 2. 2 通報失敗履歴通報」を参照してください。

12. 2. 2 通報失敗履歴通報

通報失敗履歴を蓄積し、管理センターに通報することが出来ます。通報失敗とは、近隣通報・定時通報・電池交換通報における通報が、相手不応答・相手話中・データ通信エラーで通報が終了しなかったことを指し、その情報を蓄積しておきます。装置のエラーランプが点滅している場合、通報失敗履歴が保存されていますので、以下手順で通報失敗履歴の送信を行います。
①装置の設定スイッチを設定側に切替えます。設定ランプが点灯します。
②スイッチ切替後、通報に失敗した管理センターに対し、自動ダイヤルします。
③管理センターが応答すると、通報失敗履歴データを送信します。
④通報が問題なく行われた場合、通報を終了します。データ通報が失敗した場合、再度通報を繰り返し行います。
最初の通報と合わせ、計10回行います。
⑤通報失敗履歴通報が失敗(所定回数呼出しても相手話中・不応答、または通信エラー)した場合、エラーランプは点滅したままとなります。一旦設定スイッチを運用側に切替えた後、再度①から繰り返し、エラーランプが消灯することを確認します。

12. 2. 3 定時通報

システムデータA96で日付時刻、A98で定時通報時刻を設定した場合、定時通報を行います。
定時通報時刻は以下のように設定できます。
・毎週決まった曜日時刻に行いたい。例えば毎週日曜日の23:00 :A98に「0412300」と設定
・毎月決まった日時に行いたい。例えば毎月1日の23:00 :A98に「0012300」と設定
この場合、29日~31日は設定できません。

①A98で定時通報時刻を設定した時刻になると、管理センターに自動ダイヤルします。
②管理センターが応答すると、定時通報データを送信します。同時に管理センターから時計データの補正を自動で行います。
③通報が問題なく行われた場合、通報を終了します。データ通報が失敗した場合、再度通報を繰り返し行います。
最初の通報と合わせ、計10回行います。
④近隣通報宛先が複数設定されている場合、順次通報を行います。
⑤通報失敗(所定回数呼出しても相手話中・不応答、または通信エラー)した場合、エラーランプは点滅します。
エラーランプの復旧方法は「12. 2. 2 通報失敗履歴通報」を参照してください。

12. 2. 4 電池チェックおよび電池交換通報

システムデータA99で電池チェックありを設定した場合、設定した日時に電池チェックを行います。チェック時刻は以下のように設定できます。
・毎週決まった曜日時刻に行いたい。例えば毎週日曜日の23:00 :A98に「0412300」と設定

・毎月決まった日時に行いたい。例えば毎月1日の23:00　　　:A98に「0012300」と設定
この場合、29日～31日は設定できません。

①A99で設定した時刻になると、電池チェックを行います。
②電池が規定電圧レベルを下回ると、管理センターに自動ダイヤルします。(チェック結果が良好な場合は通報しません)
③管理センターが応答すると、電池チェック結果データを送信します。
④通報が問題なく行われた場合、通報を終了します。データ通報が失敗した場合、再度通報を繰り返し行います。
最初の通報と合わせ、計10回行います。
⑤近隣通報宛先が複数設定されている場合、順次通報を行います。
⑥通報失敗(所定回数呼出しても相手話中・不応答、または通信エラー)した場合、エラーランプは点滅します。
エラーランプの復旧方法は「12．2．2　通報失敗履歴通報」を参照してください。

12．2．5 停電/復電通報

管理センターに対し停電/復電通報をデータで行います。
必要なシステムデータは以下3項目あります。いずれかのシステムデータ設定に抜けがあると通報を行いません。
・A11～A18のいずれかに近隣通報宛先が設定している
・A50で端末IDコードを設定している
・A81でデータ通報と設定した宛先がある(管理センターの電話番号は、基本的にA11に設定)
また、A19に設定しているテスト通報宛先には通報を行いません。

(1)停電通報
①停電状態が30秒間継続すると、管理センターに対し自動ダイヤルします。
②管理センターが応答すると、停電データを送出します。
③停電データ送出後、回線を開放します。
④管理センターを複数設定している場合、順次停電データ通報を行います。
音声通報に設定されている宛先に対しては通報を行いません。

(2)復電通報
①復電状態が30秒間継続すると、管理センターに対し自動ダイヤルします。
②管理センターが応答すると、復電データを送出します。
③復電データ送出後、回線を開放します。
④管理センターを複数設定している場合、順次復電データ通報を行います。
音声通報に設定されている宛先に対しては通報を行いません。

12．3 回線断線検出

回線断線検出を行い、回線断線を検出すると警告を出します。警告は、受理用電話機スピーカからの警告音、または装置エラーランプの点灯のいずれかをシステムデータで選択できます。
①装置に接続されている電話回線([LINE]コネクタに接続されているラインコード)をはずすと、約30秒後にエラーランプ点灯、または受理用電話機のスピーカから警告音「ピー」を1秒間隔で送出します。
②電話回線を元に戻すと、約1秒後に警告音停止、またはエラーランプが消灯します。
③回線断線・復旧における通報は行いません。
④回線断線・復旧における履歴蓄積は行いません。

１３．日常の点検

日常の運用において、定期点検以外にお客様にシステムが正常であるかを確認していただく必要があります。

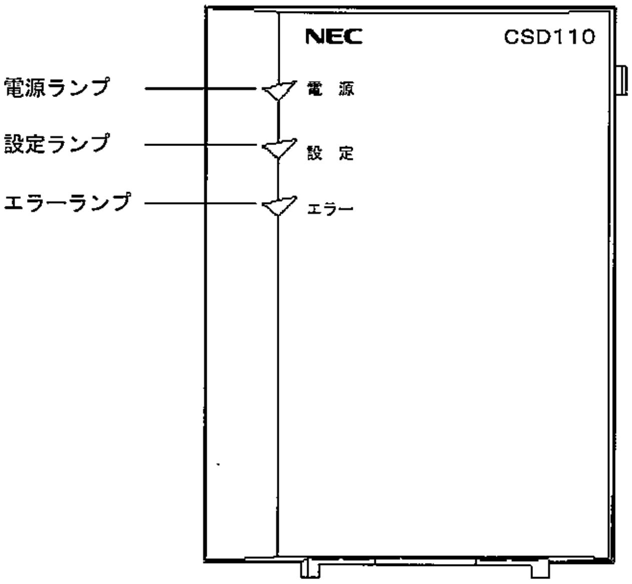
13．1 装置ランプの確認

装置のランプに異常がないかを確認します。

◆電源ランプ ：青色に点灯していれば正常です。

◆設定ランプ ：消灯していれば正常です。通報動作中は点滅しますので、異常ではありません。
もし赤色に点灯していたら、保守会社に連絡してください。

◆エラーランプ：消灯していれば正常です。もし赤色に点灯、または点滅していたら、保守会社に連絡してください。

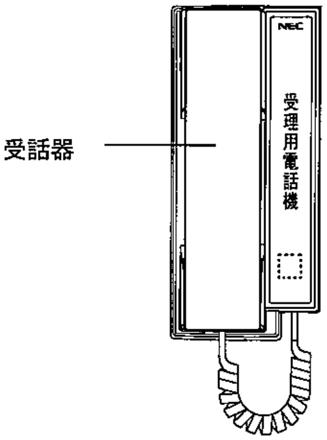


13．2 受理用電話機の確認

受理用電話機に異常がないかを確認します。

◆受理用電話機の受話器が外れていたら、元に戻してください。

◆受理用電話機から「ピー」と音が出ている場合は、保守会社に連絡してください。



１４．保守

14．1　電池の交換

装置には停電時のフルバックアップ用およびメモリバックアップ用の充電電池が実装されています。
下記のように、定期的に電池の交換が必要です。

14．1．1　停電電池

停電時にシステムのフルバックアップを行うための充電電池です。

（1）電池特性

①本電池はニッカド電池です。購入時は完全充電されていません。

②充電時間は約48時間です。その間は電源コードを抜かないでください。

③バックアップ時間は約5時間待機後、約10分間の110番通報動作が可能です。

④電池の寿命は3年です。必ず3年毎に交換する必要があります。

⑤本電池は専用電池です。購入の際は販売代理店またはお近くの営業所へ連絡してください。

（2）交換方法

①本体パネルを外します。

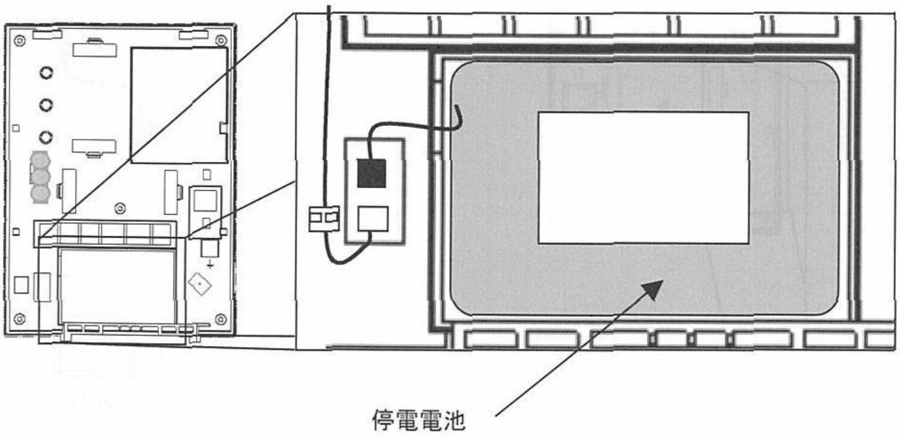
②電池を収容部から外し、電池ケーブルを引き抜きます。この際、ケーブルを引っ張るのではなく、コネクタをつかんでから引き抜いてください。

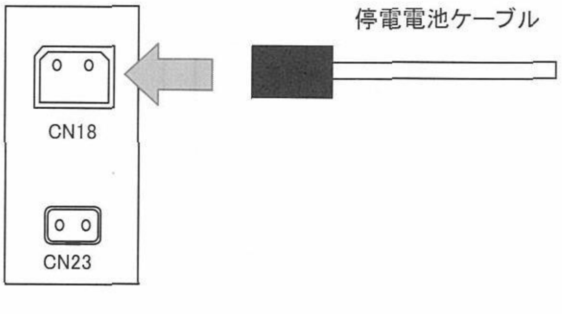
③新しい電池を収容部に装着後、コネクタにキチンと差込みます。

④本体パネルを装着します。

⑤使用済み電池は、メーカーで廃棄しますので、捨てないでください。

注意　装着向きに注意し、必ず所定のコネクタに差込んでください。





14．1．2 メモリ電池

停電時にメモリ（録音した音声および時計データ）のバックアップを行うための充電電池です。

（1）電池特性

①本電池はニッカド電池です。購入時は完全充電されていません。

②充電時間は約48時間です。その間は電源コードを抜かないでください。

③メモリバックアップ時間は約48時間です。

④電池の寿命は3年です。必ず3年毎に交換する必要があります。

⑤本電池は専用電池です。購入の際は販売代理店またはお近くの営業所へ連絡してください。

（2）交換方法

①本体パネルを外します。

②下図のようにケーブル押さえ用バンドを緩めてからメモリ電池を外し、メモリ電池ケーブルを引き抜きます。この際、ケーブルを引っ張るのではなく、コネクタをつかんでから引き抜いてください。

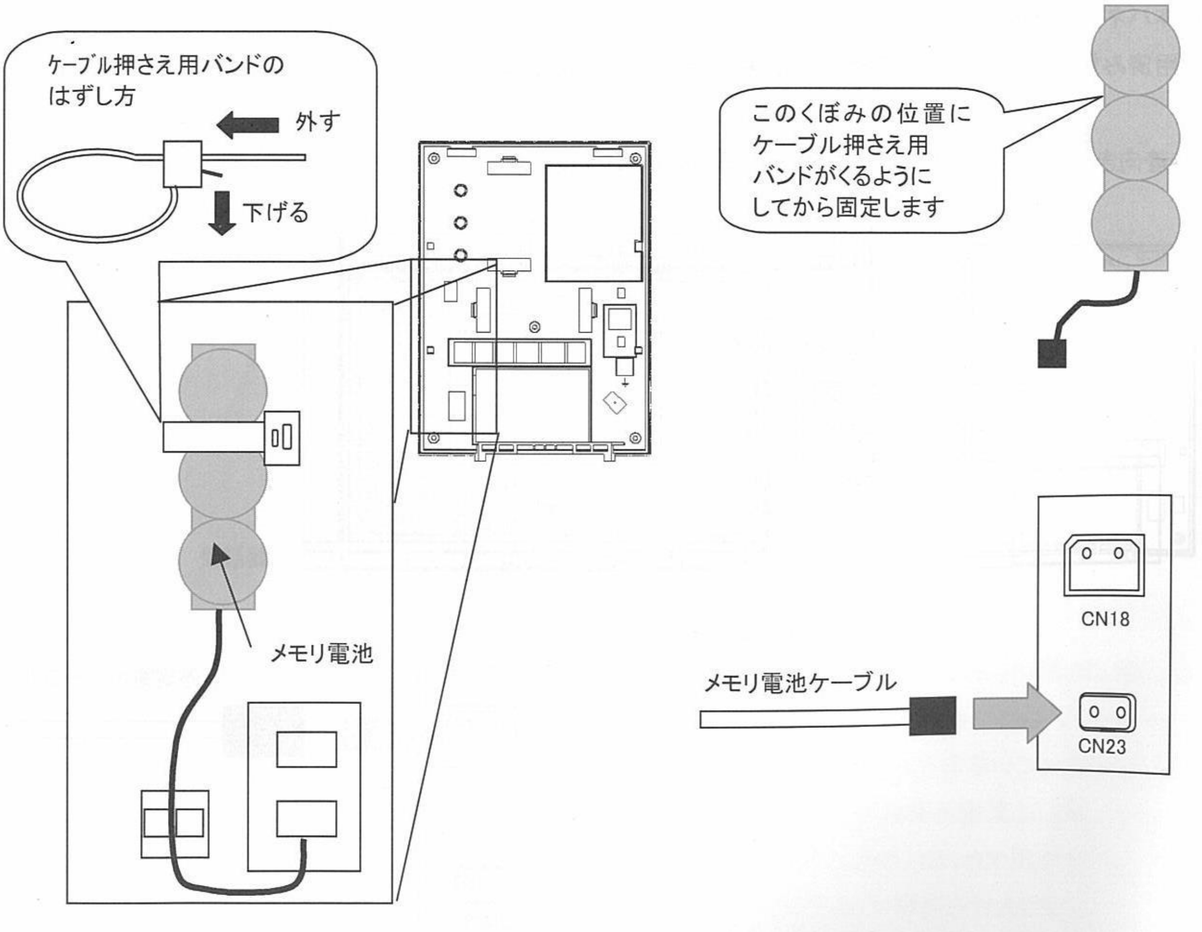
③新しいメモリ電池をケーブル押さえ用バンドで収容部に固定後、コネクタにキチンと差込みます。

④本体パネルを装着します。

⑤使用済み電池は、メーカーで廃棄しますので、捨てないでください。

注意　・装着向きに注意し、必ず所定のコネクタに差込んでください。

・ケーブル押さえ用バンドによるメモリ電池の固定位置は、下図の通りに実施してください。固定位置が異なると周辺とぶつかる恐れがあります。



１４．２　アフターサービスについて

（1）保証書（別に添付してあります）

保証書は販売代理店や最寄の営業所からお渡ししますので、購入日などの記入事項をお確かめになり、内容をよくお読みの上、大切に保存してください。

保証期間は、ご購入の日から1年間です

（2）故障等で修理を依頼される時は、販売代理店や最寄の営業所にご連絡ください。

＜連絡していただきたい内容＞

○ご住所・ご氏名（事業所）・電話番号

○ご購入日（保証書をご覧ください）

○故障内容・異常な状態（できるだけ詳しく）

○ご訪問希望日

（3）その他ご不明な点は、販売代理店や最寄の営業所にお問い合わせください。